国立大学法人
東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

国立大学法人 東京医科歯科大学広報部・IR 室
113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
電話：03-3813-6111（代表）
URL：https://www.tmd.ac.jp/

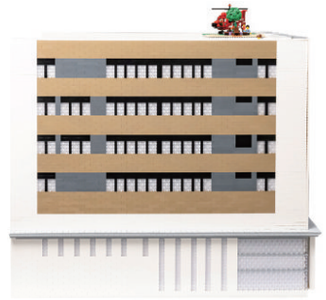
東京医科歯科大学
統合報告書 2023-2024

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY
Integrated Report 2023-2024

国立大学法人
東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

学長メッセージ
Message from the President

東京医科歯科大学（TMDU）学長
田中 雄二郎



2024年元日、能登半島地震が発生し、多くの方々が被災されました。被災されたすべての方々に、心からのお見舞いを申し上げます。東京医科歯科大学からは、医師や看護師、救急救命士など多職種で構成された職員合計 27 名が被災地で支援活動を行いました。彼ら彼女たちは、インフラが復旧しない過酷な環境の中で、医療支援を行い、被災者のために献身的な活動を行いました。また、本学に残った職員も被災地に向かった職員の分まで業務を補うことで、間接的な支援を行い、「世のため人のために」最大限の医療を提供することができました。

このような災害派遣のみならず、コロナ対応はもちろん、通常の先端医療を含め社会から課せられた使命、すなわち今日の医療という点においては、本学附属病院も世界最高水準に達していると言っても過言ではありません。

共に「科学」を追求し
新たな価値創造を希求しよう

しかし、本学は先端的な医療機関であるのみならず、教育機関であり、研究機関でもあります。その成果を社会に還元しなければなりません。

これまで本学は医療系唯一の指定国立大学法人として、明日の医療を担う人材を育て、明日の医療を生み出す研究を実践すること、そして、明日の医療の姿を社会に示すことを目指してきました。折しも東京工業大学も、理工系唯一の指定国立大学として世界最高水準への進化を模索していました。志を同じくする両大学が統合することで、それぞれの大学の守備範囲が広がり、より幅広い人材の育成、深い研究を実現できると考えています。

これが2024年 10 月に発足する「東京科学大学（Science Tokyo）」なのです。

新大学となる Science Tokyo の理念は『「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを追求し、社会とともに新たな価値を創造する』です。

Science Tokyo では、自由でフラットな学風の下、多様な社会課題に立ち向かうために、理工学、医歯学、さらには情報学、リベラルアーツ・人文社会科学などを収斂した「コンバージェンス・サイエンス」を展開します。

自由でフラットな学風とは、お互いの自由を尊重し、自分の役割に自信と誇りを持ってチャレンジしていく文化です。その前提となる多様性、公平性、包摂性など心理的安全が保障されるガバナンスに力を注ぐ方針です。

共に「科学」を追究し、新たな価値創造を希求する人のみならず、広く「科学」に興味を持つ人をも含めて、多様な人たちをこれまで以上に惹きつける大学になりたいと考えています。

臨床医学・歯学を基盤に世界へ飛躍する大学をめざす

東京医科歯科大学は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という基本理念の下に、教育・研究・医療の充実と機能強化を図ってきました。令和10年（2028年）に創立100周年を控える第４期中期目標・中期計画期間（令和４年４月１日～令和10年３月31日まで）においては、本学は指定国立大学法人として臨床医学を基盤とする世界に冠たる医療系総合大学への飛躍をめざし、以下の重点目標を掲げます。

1

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）及びSociety 5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会）に象徴される現代社会の潮流を意識しつつ、医療系総合大学の特色と強みを活かして得られた教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元することを第一の目標とします。

2

先導的な医療を担うサイエンティフィック・クリニシャン（科学的な視点で診療ができる医療人）を育成する教育体系及び環境を整備するとともに、医学研究を先導し牽引するクリニシャン・サイエンティスト（臨床的な視点をもった研究者）の育成に挑戦します。

3

先導的な医療を担うサイエンティフィック・クリニシャン（科学的な視点で診療ができる医療人）を育成する教育体系及び環境を整備するとともに、医学研究を先導し牽引するクリニシャン・サイエンティスト（臨床的な視点をもった研究者）の育成に挑戦します。

4

新型コロナウイルス感染症への対応経験を活かし、パンデミック等の非常時の迅速かつ柔軟な医療及び先端的な研究を基盤とした平時の最高水準の診療の両立を可能とする強靭な医療体制を構築します。

5

四大学連合（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）をはじめとした大学間連携及び産業界を含む官民連携を活かし、首都圏における医学教育・研究・臨床のネットワークを拡充します。そこに集約される叡智の成果を広く国内外に提供・発信するべく「トータル・ヘルスケア」拠点の機能を強化します。

6

構成員が互いに「多様性と包摂性」を重視し、各自が多様な能力を高めつつ「自律と協調」を発揮することにより、構成員の総力を挙げて未来社会の創造に貢献する大学運営を行います。

Ⅰ 教育研究の質の向上に関する事項

1 社会との共創

（1）世界トップクラスに比肩する医療系研究大学を目指し、トータル・ヘルスケアの実現に資するために、戦略的に設定する重点研究領域における先端的・先導的な研究を推進するとともに、国内外の優秀な研究者・学生を獲得できる教育研究環境を整えます。加えて、データ基盤を含む最先端の教育研究設備や、産学官を越えた国際的なネットワーク・ハブ機能等の知的資産が集積する世界最高水準のトータル・ヘルスケア教育研究拠点を構築します。

（2）我が国の持続的な発展を志向し、目指すべき社会の一環としてのトータル・ヘルスケアを実現すべく、創出される膨大な知的資産が有する潜在的可能性を見極め、その価値を最大化するとともに社会に対して積極的に発信することで、社会からの人的・財政的投資を呼び込み、教育研究を高度化する好循環システムを構築します。

2 教育

（3）深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるため、四大学連合等も活用し、卓越大学院生制度やデータサイエンス教育・文理融合型教育の導入等の大学院教育改革を実施します。独立した研究者として自らの意思で研究を遂行できる能力を育成し、医療系を中心として、社会の多様な方面で活躍する人材を養成するため、YISC によるキャリア形成支援制度を整備します。（博士課程）

（4）Society5.0 においてトータル・ヘルスケアの実現に寄与する医療人を養成するため教育課程を高度化し、最先端研究の知見、データ解析スキル、高い生命倫理観と国際感覚を備えて国内外の医療分野を先導し、中核となって社会に貢献できる医療人を輩出します。

（5）医療系データサイエンスを中心としたデータ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、教育プログラムを機動的に構築し、メディカルデータを駆使するための数理・データサイエンス・AI など新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成し、医療系ビジネスにおいて活躍できる社会人のキャリアアップを支援します。

（6）世界トップクラスに比肩する医療系研究大学をめざすために、教育研究活動についての国際アウトリーチ活動や卒業・修了後のネットワーク拡充を介して優秀な留学生の獲得をめざします。また、ポストコロナ時代に即した学生の海外交流の拡大を通じて、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成します。さらに、アジア圏を中心とした国際貢献の一環として、海外の大学と連携して教育・研修プログラムを海外へ提供するシステムを構築します。

3 研究

（7）真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指して卓越した基礎研究を行うために、個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化します。併せて、時代の変化に即して発展すべき社会医学分野に対して必要な資源を投入します。

（8）若手、女性、外国人など研究者の多様性を高めることで、トータル・ヘルスケアを実現する知の集積拠点として、持続的に新たな価値を創出し、発展し続けるための基盤を構築します。

4 その他重要事項

（9）国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究、教育関係共同利用等を推進するとともに、組織連携や共同研究を通じての教育研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図ります。

（10）世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を活かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するため、トータル・ヘルスケアを目的とした大学附属病院における運用面の効率化を推進し、併せて重点領域の診療体制やメディカルデータ集積拠点としての機能を強化します。また、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成するため、後期研修における高度・発展的な医療安全・医療倫理教育の充実やデータサイエンス等を活用した質の高い臨床研究の遂行を可能とする卒後教育プログラム等を整備します。併せて医療分野における政策提言や社会的危機に即応できる人材の育成支援を行います。（附属病院）

（11）感染症に強い社会を実現するために、感染症に関する教育・研究・診療に関わる研究者・医療人が有機的に連携する拠点を形成し、その活動や成果を国内外に発信するとともに、地域社会に還元します。

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(12) 内部統制機能を実質化させ、外部の知見を法人経営に生かすための仕組みを構築するとともに、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画を推進し、学長のリーダーシップのもとで、指定国立大学法人構想を実現すべく、強靭なガバナンス体制を構築します。

(13) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図ります。

III 財務内容の改善に関する事項

(14) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立をめざします。併せて、めざす機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進めます。

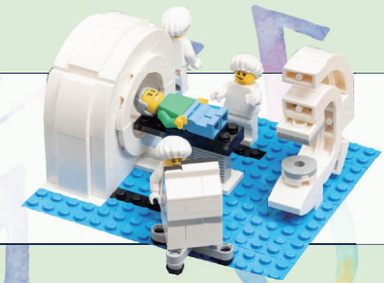
IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

(15) 客観性と外部性を確保しつつ、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現します。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得します。

V その他業務運営に関する重要事項

(16) デジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進します。

2023 年度決算　1　損益計算書（P/L）



2023 年度

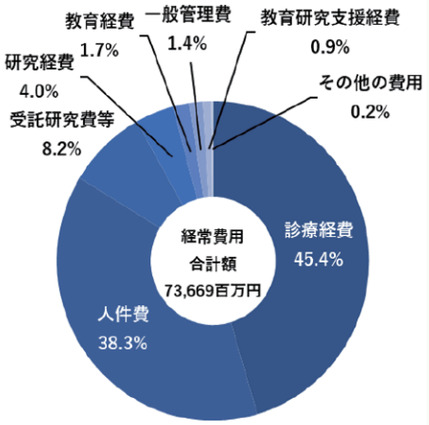
経常費用合計は 73,669 百万円
前期末比 5,597 百万円（8.2%）の増加

主な増加要因

- **診療経費**が 4,229 百万円（14.4%）増の 33,461 百万円となりました。通常診療率の引き上げによる入院・外来患者数の増及び物価高騰の影響による診療材料価格や各種委託費の高騰が主な要因です。
- **受託研究費等**が 531 百万円（9.6%）増の 6,041 百万円となりました。当期受入額が 50 百万円を超える研究契約の件数が増加した（2022 年度 19 件→2023 年度 27 件）一方で支出も増加したことが主な要因です。
- **人件費**が 599 百万円（2.2%）増の 27,358 百万円となりました。機能強化棟稼働に向けた体制整備のための増員が主な要因です。

科　目		2022年度	2023年度	対前年度増減額
経常費用	業務費	66,744	72,519	5,775
	教育経費	1,229	1,251	22
	研究経費	2,742	2,929	187
	診療経費	29,232	33,461	4,229
	教育研究支援経費	671	649	△ 22
	受託研究費等	5,510	6,041	531
	人件費	27,358	28,185	827
	一般管理費	1,070	1,010	△ 60
	財務費用	63	123	60
	雑損	193	16	△ 177
	経常費用　計	68,072	73,669	5,597

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。



2023 年度

経常収益合計は 71,888 百万円
前期末比 2,556 百万円（3.6%）の増加

主な増加要因

附属病院収益が 4,402 百万円（10.8%）増の 44,972 百万円となりました。コロナ専用病床を廃止して通常の診療体制へ移行し、その中でコマンドセンターシステム活用によるベッドコントロール効率化や他施設との連携強化等によって病床稼働率が向上したことが主な要因です。

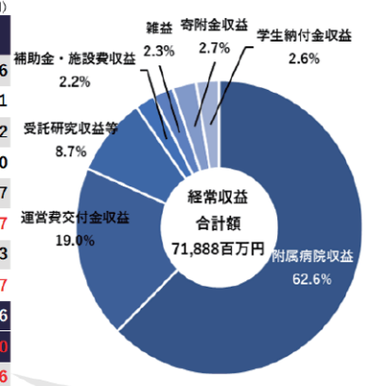
主な減少要因

- **補助金・施設費収益**が 2,947 百万円（64.9%）減の 1,597 百万円となりました。新型コロナウイルス感染症に関連した補助金の受け入れが減少したことが主な要因です。
- **臨時損失**が 3,146 百万円（5,720.0%）増の 3,201 百万円となりました。法人化時に国から承継した建物の耐用年数が税法上の耐用年数と異なっていたことを受け、過年度の減価償却費が過小に計上されていた分を臨時損失として計上したこと、越中島住宅の用途廃止を受けて減損損失を計上したことが主な要因です。

（単位：百万円）

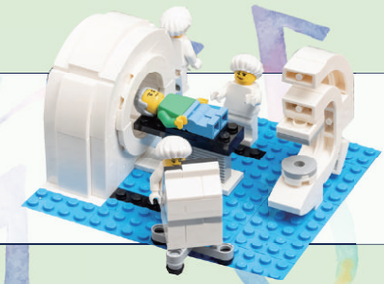
科　目		2022年度	2023年度	対前年度増減額
経常収益	運営費交付金収益	13,587	13,643	56
	学生納付金収益	1,831	1,852	21
	附属病院収益	40,570	44,972	4,402
	受託研究収益等	5,551	6,231	680
	寄附金収益	1,451	1,918	467
	補助金・施設費収益	4,544	1,597	△ 2,947
	財務収益	10	13	3
	雑益	1,785	1,658	△ 127
	経常収益　計	69,332	71,888	2,556
経常利益/損失　計		1,259	△ 1,781	△ 3,040
臨時損失(注1)		△ 55	△ 3,201	△ 3,146
臨時利益(注2)		3,349	1	△ 3,348
当期純利益/損失		4,553	△ 4,982	△ 9,535
目的積立金取崩額		471	956	485
当期総利益/損失		5,025	△ 4,026	-
うち目的積立金		770	0	△ 770

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。



（注1）臨時損失
法人化時に国から承継した建物の過年度分減価償却費及び越中島宿舎の減損損失を計上したことにより増加しております。

（注2）臨時利益
2022年度は会計基準改訂によるものがありましたが、2023年度は同様の処理がないため減少しております。



2023 年度

資産合計は 167,635 百万円
前期末比 11,218 百万円（6.3%）の減少

主な増加要因

工具器具備品が 5,149 百万円（76.5%）増の 11,875 百万円となりました。機能強化棟稼働開始に向けて設備整備を行ったことが主な要因です。

主な減少要因

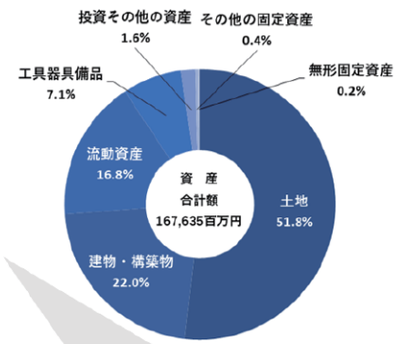
●**建物・構築物**が 5,371 百万円（12.7%）減の 36,930 百万円となりました。法人化時に国から承継した建物の耐用年数が税法上の耐用年数と異なっていたことを受け、過年度分減価償却費を計上したこと、越中島住宅の減損損失を計上したことが主な要因です。

●**現金及び預金**が 11,508 百万円（38.5%）減の 18,419 百万円となりました。2022 年度末の機能強化棟引き渡しに伴う支払いに備えて 2023 年 3 月末に借り入れた資金を 2023 年 4-5 月にかけて支出したことや目的積立金を取り崩して各種プロジェクトを推進したことが主な要因です。

（単位：百万円）

科　目		2022年度	2023年度	対前年度増減額
資産の部	Ⅰ　固定資産	139,494	139,389	△ 105
	1　有形固定資産	136,825	136,354	△ 471
	土地	86,804	86,804	0
	建物・構築物(注1)	42,301	36,930	△ 5,371
	工具器具備品	6,726	11,875	5,149
	建設仮勘定	399	154	△ 245
	図書	558	561	3
	その他	35	28	△ 7
	2　無形固定資産	317	296	△ 21
	3　投資その他の資産	2,351	2,738	387
	Ⅱ　流動資産	39,359	28,245	△ 11,114
	現金及び預金(注2)	29,927	18,419	△ 11,508
	未収入金	8,309	8,671	362
	有価証券	200	200	0
	医薬品及び診療材料	717	790	73
	前渡金・前払費用	110	130	20
	その他	94	34	△ 60
	資産　計	178,853	167,635	△ 11,218

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。



（注1）建物・構築物
過小に計上されていた過年度減価償却費を計上したこと等によって減少しております。
（注2）現金及び預金
機能強化棟完成に伴う支払いに備えて2023年3月末に借り入れた資金を2023年4-5月にかけて支出したこと等によって減少しております。

2023 年度

負債合計は 43,225 百万円
前期末比 3,622 百万円（7.8%）の減少

主な増加要因

●**長期借入金**が 1,794 百万円（12.1%）増の 16,581 百万円となりました。現在進行中の病院再整備工事完了時の支払いに向けて新たに借り入れたことが主な要因です。

●**資産除去債務**が 481 百万円（123.6%）増の 870 百万円となりました。解体を予定している越中島宿舎のアスベスト除去にかかる費用の見積もりを見直したことによって増加したことが要因です。

主な減少要因

●**未払金**が 6,932 百万円（47.1%）減の 7,816 百万円となりました。2022 年度末にあった機能強化棟引き渡し分の支払いが 2023 年度中に行われたことが主な要因です。

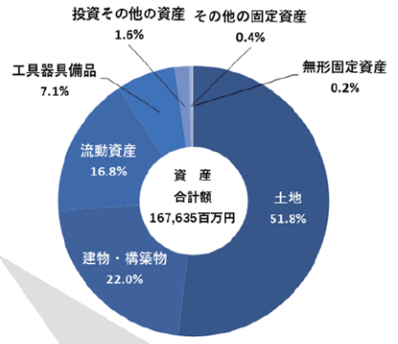
●**利益剰余金**が 7,554 百万円（14.9%）減の 43,262 百万円となりました。当期純損失を計上したことや前中期目標期間繰越積立金を財源に資産を取得したことが主な要因です。

当期末の純資産（資産と負債の差額）は、資本剰余金及び利益剰余金が減少したこと等により、前年度末比で 7,595 百万円（5.8%）減少し、124,410 百万円となりました。

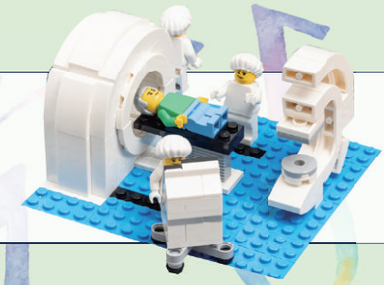
（単位：百万円）

科　目		2022年度	2023年度	対前年度増減額
資産の部	Ⅰ　固定資産	139,494	139,389	△ 105
	1　有形固定資産	136,825	136,354	△ 471
	土地	86,804	86,804	0
	建物・構築物(注1)	42,301	36,930	△ 5,371
	工具器具備品	6,726	11,875	5,149
	建設仮勘定	399	154	△ 245
	図書	558	561	3
	その他	35	28	△ 7
	2　無形固定資産	317	296	△ 21
	3　投資その他の資産	2,351	2,738	387
	Ⅱ　流動資産	39,359	28,245	△ 11,114
	現金及び預金(注2)	29,927	18,419	△ 11,508
	未収入金	8,309	8,671	362
	有価証券	200	200	0
	医薬品及び診療材料	717	790	73
	前渡金・前払費用	110	130	20
	その他	94	34	△ 60
	資産　計	178,853	167,635	△ 11,218

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。



（注1）建物・構築物
過小に計上されていた過年度減価償却費を計上したこと等によって減少しております。
（注2）現金及び預金
機能強化棟完成に伴う支払いに備えて2023年3月末に借り入れた資金を2023年4-5月にかけて支出したこと等によって減少しております。



2023 年度キャッシュ・フロー

機能強化棟竣工後支払に備えて 2022 年度末に借り入れた長期借入金を原資とした固定資産取得支出等により、当期末の資金残高は前年度末比で 11,508 百万円（38.5%）減少し、18,419 百万円となりました。このうち 3,597 百万円は目的積立金の累積であり、翌事業年度以降に指定国立大学法人構想実現のため等に活用する予定です。（文部科学大臣承認済）

（単位：百万円）

科　目		2022年度	2023年度	対前年度増減額
業務活動によるCF	原材料等購入支出	△ 33,716	△ 38,228	△ 4,512
	人件費支出	△ 27,991	△ 29,269	△ 1,278
	その他業務支出	△ 955	△ 881	74
	運営費交付金収入	13,978	13,554	△ 424
	学生納付金収入	1,655	1,674	19
	附属病院収入	39,716	44,401	4,685
	受託研究等収入	5,989	6,941	952
	補助金等収入	4,848	1,842	△ 3,006
	寄附金収入	1,412	1,593	181
	その他業務活動増減	1,442	1,421	△ 21
	業務活動CF　計	6,380	3,050	△ 3,330
投資活動によるCF	有価証券等取得支出	△ 196	△ 596	△ 400
	有価証券等売却収入	200	200	0
	固定資産取得支出	△ 2,689	△ 15,764	△ 13,075
	施設費収入	651	204	△ 447
	その他投資活動増減	29	29	0
	投資活動CF　計	△ 2,005	△ 15,926	△ 13,921
財務活動によるCF	長期借入による収入	4,839	3,457	△ 1,382
	長期借入金返済支出	△ 892	△ 1,177	△ 285
	リース債務等返済支出	△ 1,959	△ 789	1,170
	その他投資活動増減	△ 63	△ 123	△ 60
	財務活動CF　計	1,923	1,367	△ 556
資金増減額		6,298	△ 11,508	△ 17,806
資金期首残高		23,629	29,927	6,298
資金期末残高		29,927	18,419	△ 11,508

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。

経常費用の推移

経常費用総額は 39,485 百万円（2004 年度）→ 73,669 百万円（2023 年度）

法人化当初と比較して 34,184 百万円（86.5%）の増加

「診療経費」の増加要因

主に大学病院の機能強化や事業規模の拡大により、新たな医療機器の取得や高額薬剤の使用が増加し、**診療経費**が増加しています。

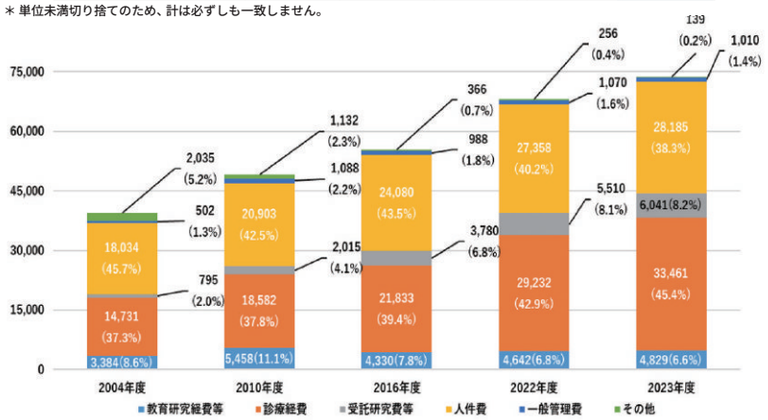
「受託研究費等」の増加要因

2023 年 3 月に、企業との産学連携活動の推進や知的財産の戦略的活用、臨床シーズの創出・育成・導出の支援、本学の医療データ社会還元事業にかかる業務を行う「統合イノベーション機構」を設置するなど、産学連携を強化する為の組織体制を整備しています。これらの取組により獲得した研究費を執行したことにより支出が大きく増加しました。

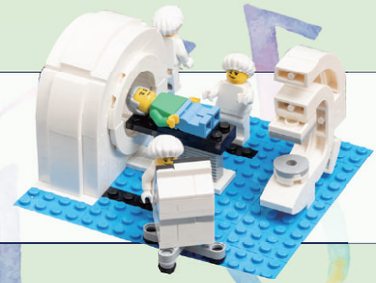
（単位：百万円）

		2004年度	2010年度	2016年度	2022年度	2023年度
経常費用	業務費	36,947	46,960	54,026	66,744	72,519
	教育経費	735	1,788	1,050	1,229	1,251
	研究経費	2,066	2,949	2,100	2,742	2,929
	診療経費	14,731	18,582	21,833	29,232	33,461
	教育研究支援経費	583	721	1,180	671	649
	受託研究費等	795	2,015	3,780	5,510	6,041
	人件費	18,034	20,903	24,080	27,358	28,185
	一般管理費	502	1,088	988	1,070	1,010
	財務費用	2,035	1,117	354	63	123
	雑損	0	15	12	193	16
	経常費用　計	39,485	49,182	55,381	68,072	73,669

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。



財務状況



経常収益の推移

経常収益総額は 44,023 百万円（2004 年度）→ 71,888 百万円（2023 年度）

法人化当初と比較して 27,865 百万円（63.2%）の増加

「運営費交付金収益」の減少について

法人化以降、国立大学法人全体として国からの運営費交付金措置額が減少傾向にあり、本学でも附属病院運営費交付金の不交付などを要因として、約 3 割の減少となっています。また、経常収益の規模が拡大する一方で、運営費交付金収益の構成割合が減少しており、財源が多様化しています。

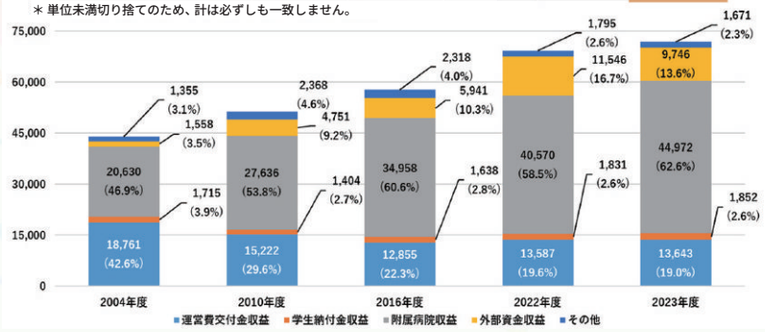
「附属病院収益」の増加要因

事業規模の拡大に伴う患者数、診療単価、手術件数増を背景として、附属病院収益も増加しています。

（単位：百万円）

		2004年度	2010年度	2016年度	2022年度	2023年度
経常収益	運営費交付金収益	18,761	15,222	12,855	13,587	13,643
	学生納付金収益	1,715	1,404	1,638	1,831	1,852
	附属病院収益	20,630	27,636	34,958	40,570	44,972
	受託研究収益等	799	2,017	3,787	5,551	6,231
	寄附金収益	735	1,215	1,134	1,451	1,918
	補助金・施設費収益	24	1,519	1,020	4,544	1,597
	財務収益	0	4	0	10	13
	雑益	238	1,198	1,193	1,785	1,658
	資産見返負債戻入	1,117	1,166	1,125	0	0
	経常収益　計	44,023	51,386	57,714	69,332	71,888
臨時損失		△ 1,741	△ 30	△ 114	△ 55	△ 3,201
臨時利益		1,847	25	40	3,349	1
当期純利益/損失		4,644	2,198	2,258	4,553	△ 4,982
目的積立金取崩額		0	341	60	471	956
当期総利益/損失		4,644	2,539	2,318	5,025	△ 4,026

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。



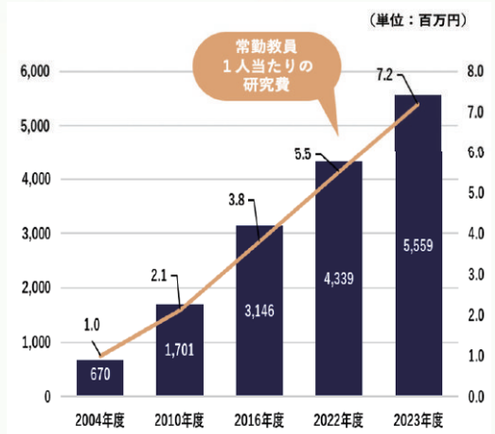
外部資金　当期受入額の推移

受託研究費

2023 年度の受託研究費における当期受入額は法人化当初（2004 年度）と比較して、**約 8.3 倍の 5,559 百万円と**なりました。

常勤教員一人当たりに換算した研究費受入額についても増加しており、さらに当期受入額が 5,000 万円を超える大型の研究契約の件数も増加しております。

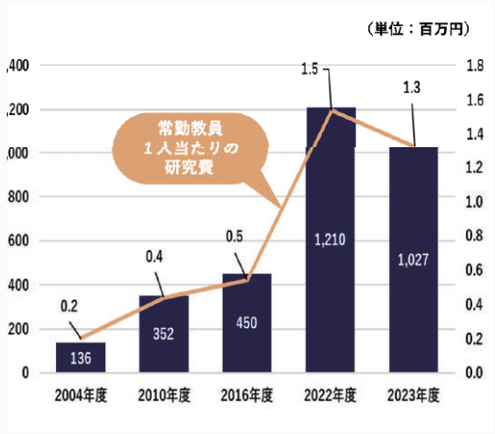
※ 2022 年度 19 件→ 2023 年度 27 件



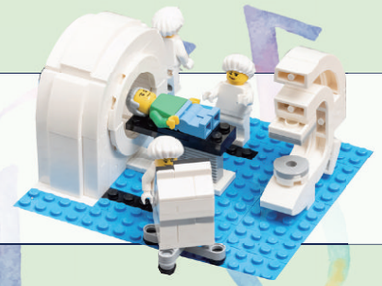
共同研究費

2023 年度の共同研究費における当期受入額は法人化当初（2004 年度）と比較して、**約 7.5 倍の 1,027 百万円**となりました。

オープンイノベーション機構をはじめとする民間企業との産学連携を強化するための組織体制を整備したことで、常勤教員一人当たりの研究費受入額も増加傾向にあります。



財務状況

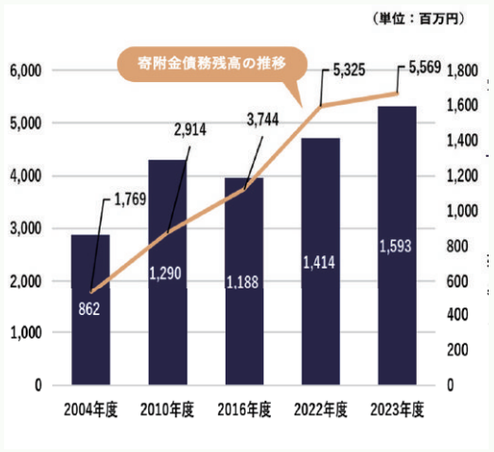


外部資金　当期受入額の推移

寄附金

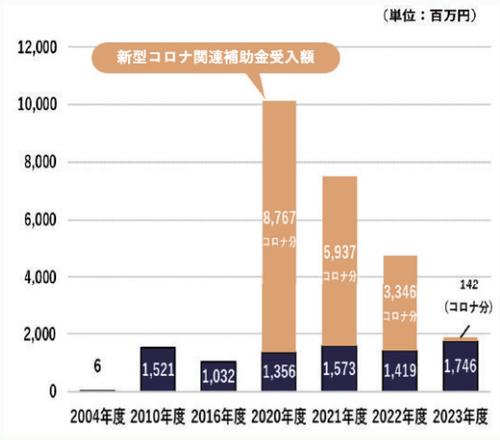
2023年度の寄附金における当期受入額は法人化当初（2004年度）と比較して、**約1.8倍の1,593百万円**となりました。

2023年度当期受入額の主な内容は、一般基金や研究等支援基金を始めとする東京医科歯科大学特定基金、研究助成を目的とした複数の大型寄附金を受け入れたことによるもので、寄附金債務残高（ストック）も過去最高となっております。



補助金

2023年度の補助金における当期受入額は、新型コロナ関連補助金の打切等により2022年度と比較して減少したものの、新型コロナ関連補助金以外の交付が**1,746百万円**となり、第三期中期目標期間6年間の平均（1,192百万円）と比べて約1.4倍となりました。



業務損益 - 大学病院 -

業務費用合計は52,129百万円　前期末比4,600百万円（9.6%）の増加

業務収益合計は49,380百万円　前期末比1,641百万円（3.4%）の増加

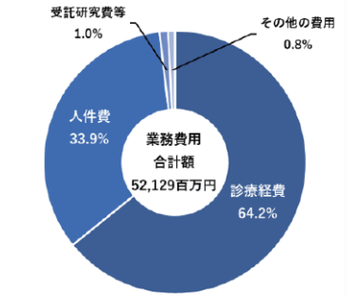
新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて通常診療の比率を引き上げたことや機能強化棟の稼働開始により、当年度の**診療経費**は対前年度比4,228百万円（14.4%）増となる一方で、**附属病院収益**は対前年度比4,402百万円（10.8%）増となりました。

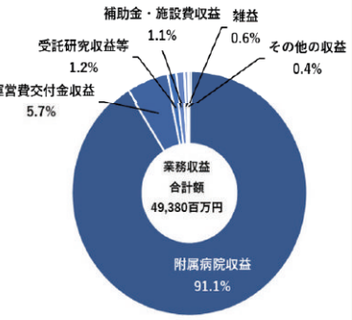
一方で、政府や東京都からの新型コロナウイルス関連補助金の大幅な減少等により、当年度の業務損益は対前年度比△2,959百万円（1409.0%）減の△2,749百万円となりました。

病院施設の老朽化への対応及び患者サービス・医療安全の向上のため病院の再開発事業が予定されており、多額の費用が必要になることから、安定した財政基盤構築のための経営改善に取り組んでいます。

（単位：百万円）

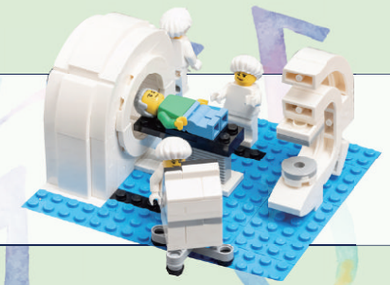
		2022年度	2023年度	対前年度増減額
業務費用	業務費	47,159	51,846	4,687
	教育経費	18	15	△ 3
	研究経費	143	135	△ 8
	診療経費	29,232	33,460	4,228
	教育研究支援経費	1	11	10
	受託研究費等	533	545	12
	人件費	17,231	17,677	446
	一般管理費	152	155	3
	財務費用	57	118	61
	雑損	159	8	△ 151
	業務費用　計	47,529	52,129	4,600
業務収益	運営費交付金収益	2,514	2,819	305
	附属病院収益	40,570	44,972	4,402
	受託研究収益等	545	578	33
	寄附金収益	70	177	107
	補助金・施設費収益	3,495 (3,093)	549 (124)	△2,946 (△2,968)
	雑益	543 (277)	282 (3)	△261 (△274)
	資産見返負債戻入	–	–	–
	業務収益　計	47,739 (3,370)	49,380 (128)	1,641 (△3,242)
業務損益　計		210 (3,370)	△2,749 (128)	△2,959 (△3,242)





＊1 単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。
＊2 新型コロナウイルス関連補助金および助成金の金額を内数として（）内に記載しています。

財務状況



業務費用の推移 - 大学病院 -

大学病院の業務費用総額は25,853百万円（2004年度）→52,129百万円（2023年度）

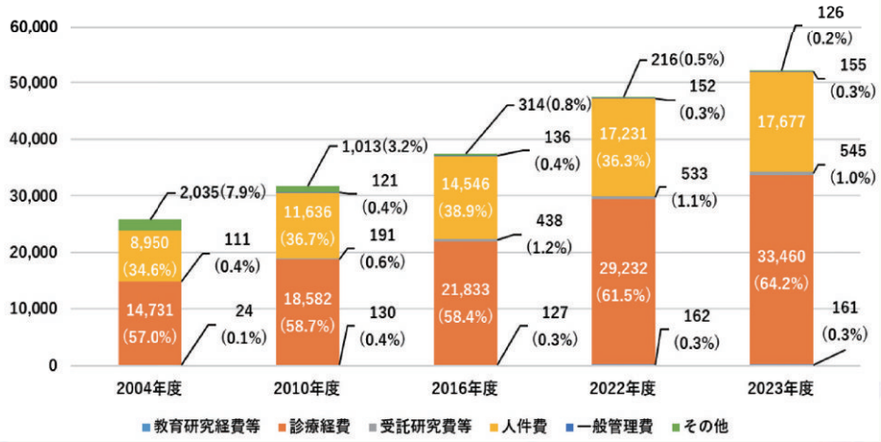
法人化当初と比較して26,276百万円（101%）の増加

経費毎の割合では、医療機器の取得・更新や高額薬剤の使用拡大による**診療経費**の増加が顕著となっており、法人化当初、14,731百万円であった同経費は2023年度には18,729百万円（117.1%）増加し、33,460百万円となりました。業務費用総額に占める割合も、57.0%から64.2%へ上昇しています。

（単位：百万円）

		2004年度	2010年度	2016年度	2022年度	2023年度
業務費用	業務費	23,817	30,540	36,947	47,159	51,846
	教育経費	0	28	12	18	15
	研究経費	24	102	115	143	135
	診療経費	14,731	18,582	21,833	29,232	33,460
	教育研究支援経費	0	0	0	1	11
	受託研究費等	111	191	438	533	545
	人件費	8,950	11,636	14,546	17,231	17,677
	一般管理費	0	121	136	152	155
	財務費用	2,035	1,012	306	57	118
	雑損	0	1	8	159	8
	業務費用　計	25,853	31,676	37,399	47,529	52,129

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。



業務収益・業務損益 - 大学病院 -

大学病院の業務収益総額は30,172百万円（2004年度）→49,380百万円（2023年度）

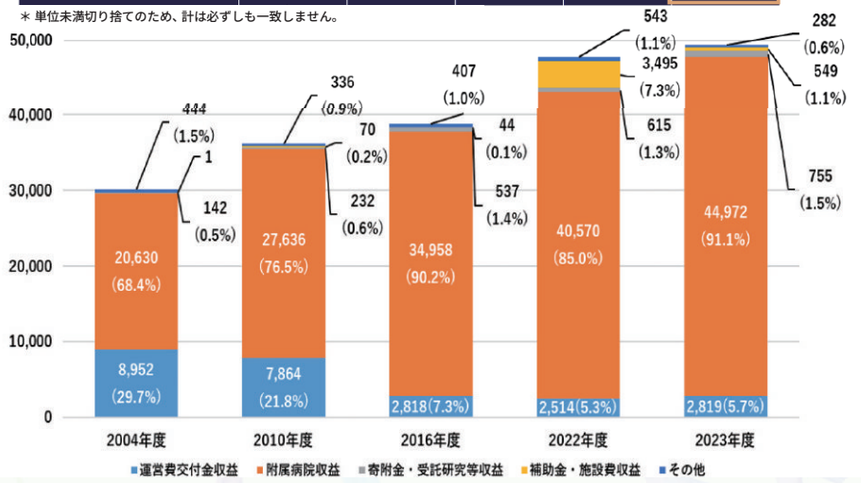
法人化当初と比較して19,208百万円（63.6%）の増加

法人化当初は、附属病院運営費交付金の交付等により**運営費交付金収益**は業務収益の29.7%を占めていましたが、2023年度には全体の5.7%まで減少しています。その一方で、大学病院の機能強化や規模の拡大による**附属病院収益**の増加が進んでおり、2016年度には附属病院収益が全体の90.2%を占めました。2020年度以降は**新型コロナウイルスに関連する補助金**の受け入れが増加したことから一時的に割合は減少しましたが、2023年度は全体の91.1%を占める状態となっています。

（単位：百万円）

		2004年度	2010年度	2016年度	2022年度	2023年度
業務収益	運営費交付金収益	8,952	7,864	2,818	2,514	2,819
	附属病院収益	20,630	27,636	34,958	40,570	44,972
	受託研究収益等	111	192	440	545	578
	寄附金収益	31	40	97	70	177
	補助金・施設費収益	1	70	44	3,495	549
	雑益	13	54	135	543	282
	資産見返負債戻入	431	282	272	0	0
	業務収益　計	30,172	36,140	38,766	47,739	49,380
	業務損益　計	4,319	4,464	1,367	210	△ 2,749

＊単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。



基本理念・教育理念・シンボルマーク

基本理念

知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する

学問と教育の聖地、湯島・昌平坂に建つ本学は、医療系総合大学として「知と癒しの匠」を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献します。

- **教育について**
  幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成します。
- **研究について**
  さまざまな学問領域の英知を結集して、時代に先さきが駆ける研究を推し進め、その成果を広く社会に還元します。
- **医療について**
  心と身からだ体を癒す質の高い医療を、地域に提供するとともに、国内さらに世界へと広めていきます。

この理念に基づき、本学の全構成員がそれぞれの役割を自覚し、自らの使命を果たします。

教育理念

1 幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養を目指す

病める人と向き合う医療人は、患者の痛みが分かり、そして患者を取り巻く様々な状況をも理解しなければならない。それには豊かな教養と人間への深い洞察力、高い倫理観と説明能力を備えなければならない。

2 自己問題提起、自己問題解決型の創造力豊かな人間を養成する

学業あるいは研究に当たっては、何事も鵜呑みにすることなく、疑問を投げかけ、種々の情報を収集、解析し、自ら解決する能力が求められる。そうしてはじめて、独創的な研究を推進できる人材が育まれる。

3 国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する

研究成果が即座に世界に伝播する現代において、医療の分野でもその情報と時間の共有化が益々進んでいる。このような状況の中で、立ち遅れない、むしろ最先端を行く人材の養成に努める。そのために海外教育研究拠点、海外国際交流協定校への派遣を積極的に推進する。

シンボルマーク

この図は本学のシンボルマークであり、これには次のような意味が含まれております。

1. 東京医科歯科大学の発展の歴史と、その将来へのあるべき姿を、本学の所在地、湯島にちなんで、湯島天神―学問の神―の象徴である梅の花になぞらえて図案化したものです。
2. 花の芯に当たる中央の輪は、旧東京高等歯科医学校の校章であり、これを基盤として現在の本学があることを示しております。
3. 5 枚の花弁は、医学部、歯学部、教養部、生体材料工学研究所、難治疾患研究所の 5 部局を表し、それらが、がっちりとスクラムを組んで花を咲かせているという本学の姿を表現しています。
4. 5 枚の花弁は、将来に向かって無限に躍進するという意図を表すために花弁の外側を肉厚にし、これによって躍動的な感覚を盛り込んでおります。

ロゴマーク

本学の欧文表記TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITYの頭文字をとったTMDUを図案化し、これを本学のロゴマークとします。これには次のような意味が含まれております。

1.「M」と「D」をつなげることで、医学と歯学の融合を表現しています。
2. 太いラインは“自信”や“強さ”を表し、本学の伝統を表現しています。

役員紹介

理事・副学長（医療担当）
内田 信一

理事・副学長（研究・改革担当）
古川 哲史

理事・副学長（教育担当）
若林 則幸

理事・副学長
（財務・資産活用担当）・CFO
廣川 和憲

理事・副学長
（産官学連携・教員人事担当）
東條 有伸

理事・副学長
（財務・資産活用担当）・CFO
山田 素子

理事（大学統合担当）（非常勤）
高田 正雄

理事（ガバナンス改革担当）
（非常勤）
今戸 智恵

監事
藤谷 茂樹

監事（非常勤）
岸上 恵子

1928年、歴史が始まる

日本で初めて、国立の歯科医師養成機関として、本学の前身である東京高等歯科医学校が創立され、その長い歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、トップレベルの教育・研究機関として日本の医学・歯学の世界をリードしてきました。

東都御茶之水風景（昇亭北寿）
昇亭北寿の万世橋付近から見たお茶の水方面の風景。本学が位置する場所（右手）には1790年から江戸幕府によって昌平坂学問所が置かれていた。

東京高等歯科医学校第一附属医院
官立歯科医学教育機関の必要性が歯科医師により早くから認識されていた背景も後押しし、「学問と教育の聖地である湯島」に東京高等歯科医学校が設立された

足踏みエンジンを用いたファントーム実習
歯の模型をマネキンに装着して治療技術の修錬を行うファントーム実習は、長尾優学長が導入した。

歯学部附属病院 歯科新棟
1982年、歯学部附属病院の歯科新棟（写真中央の高い建物）が竣工。以降、歯学部附属病院では、障害者歯科治療部、高齢者歯科治療部など患者のニーズに対応した治療部門を相次いで設置。

C棟完成
ERセンター、手術室、集中治療室（ICU）、医療器材、医療情報システムなど、病院の機能を強化するための施設として使われている。

統合に向けた基本合意書締結
2022年10月14日、両大学の伝統と先進性を活かしながら、これまでどの大学もなし得なかった新しい大学の在り方を創出することを目的に、統合に向けた基本合意書を締結。

1928

1928年10月12日	東京高等歯科医学校を設置
1930年12月	東京高等歯科医学校湯島（東京女子高等師範学校跡地）に移転
1944年4月	東京医学歯学専門学校となり医学科を設置
1946年8月	東京医科歯科大学（旧制）設置　附属図書館を設置
1949年6月	医学部、歯学部附属医院が医学部、歯学部附属病院とそれぞれ改称
1950年4月	医学部附属厚生女学部設置（1951.4 医学部附属看護学校と改称、1989.4 医学部保健衛生学科看護学専攻に改組）
1951年4月	国立学校設置法により東京医科歯科大学（新制）設置　医学部医学科、歯学部歯学科を設置　歯科材料研究所を附置（1966.4 医用器材研究所に改称、1999.4 生体材料工学研究所に改組）歯学部附属歯科衛生士学校を設置（2004.4 歯学部口腔保健学科に改組、2011.4 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻に改組）
1952年4月	歯学部附属歯科技工士学校を設置（2011.4 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻に改組）
1955年4月	大学院（医学研究科・歯学研究科）を設置　医学および歯学進学課程を設置（1955.4 ～ 1958.3 千葉大学文理学部内、1958.4 ～ 1965.3　国府台分校、1965.4 教養部となる）
1962年4月	医学部附属衛生検査技師学校を設置（1972.4 医学部附属臨床検査技師学校に改組、1989.4 医学部保健衛生学科検査技術学専攻に改組）
1973年9月	難治疾患研究所を設置
1989年4月	医学部保健衛生学科（看護学専攻・検査技術学専攻）を設置
1993年4月	大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称　大学院医学系研究科（保健衛生学専攻）を設置
1999年4月	大学院医歯学総合研究科を設置

2000

2000年4月	大学院医学系研究科（保健衛生学専攻）を大学院保健衛生学研究科に改称
2001年4月	大学院医歯学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）を設置
2003年4月	大学院生命情報科学教育部を設置（2012.4 大学院医歯学総合研究科に統合） 大学院疾患生命科学研究部を設置（2012.3 廃止）
2004年4月	国立大学法人 東京医科歯科大学設置　歯学部口腔保健学科を設置
2013年4月	学生支援・保健管理機構を設置
2013年10月	リサーチ・ユニバーシティ推進機構を設置（2023.3 廃止）
2014年10月	スポーツサイエンス機構を設置
2016年3月	統合教育機構、統合国際機構を設置
2017年4月	統合研究機構、統合診療機構、統合情報機構を設置
2018年4月	統合大学改革推進機構を設置（2020.4 統合改革機構に改組）
2018年5月	高等研究院を設置
2018年12月	オープンイノベーション機構を設置（2023.3 オープンイノベーションセンターに改組）
2020年4月	M&Dデータ科学センター、統合イノベーション推進機構を設置（2023.3 統合イノベーション機構に改組）
2020年10月	指定国立大学法人に指定
2021年10月	医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し、東京医科歯科大学病院になる
2022年10月	国立大学法人東京工業大学との統合に向けた基本合意書を締結
2023年10月	C棟（機能強化棟）完成
2023年11月	TMDU感染症センターを設置

歴代の学長

東京医科歯科大学の歴史がスタートしたのは、1928年。 その長い歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、トップレベルの教育・研究機関として日本の医学・歯学の世界をリードしてきました。

初代校長

島峰 徹先生

Professor Toru Shimamine

1928(昭和3)年10月13日〜
1945(昭和20)年2月9日

1905年東京帝国大学医科大学卒業。専門は歯科学。東京高等歯科医学校(東京医科歯科大学の前身)の創立者。1907年よりドイツ・ベルリン大学、ブレスラウ大学に8年間留学。1915年医術開業試験附属病院歯科医長、1928年東京高等歯科医学校校長、1944年東京医学歯学専門学校校長となり医学科を設置。1930年ドイツ・ブレスラウ大学より名誉歯学博士の学位を授与。

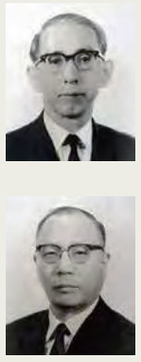
2代校長・初代学長

長尾 優先生

Professor Masaru Nagao

1945(昭和20)年2月10日〜
1961(昭和36)年6月30日

1913年東京帝国大学医科大学卒業。専門は歯科補綴学。島峰徹先生のもとで東京高等歯科医学校の設立に貢献。島峰先生に次いで東京医学歯学専門学校校長。戦後、歯科専門学校の大学昇格設立に尽力。1946年東京医科歯科大学の初代学長となる。日本歯科医学会初代会長。歯科材料に造詣が深く、我が国初の歯科材料研究所(現・生体材料工学研究所)の設立に寄与した。



2代学長

岡田 正弘先生

Professor Masahiro Okada

1961(昭和36)年7月1日〜
1968(昭和43)年2月29日

1925年東京帝国大学医学部卒業。専門は薬理学。1959年に「硬組織の生理と薬理の研究」で第49回日本学士院賞受賞。学生にとても人気があり、森鴎外の研究者、エッセイストとしても知られ著書に『忙裡雑筆集』がある。1965年、教養部を設置。

3代学長

太田 敬三先生

Professor Keizo Ota

1968(昭和43)年3月1日〜
1969(昭和44)年10月8日

1926年東京帝国大学医学部卒業。専門は小児科。1949年6月より初代東京医学歯学専門学校附属医院国府台分院長。1956年4月より医学部附属病院長。1968年学長に就任。同年5月、大学紛争のさなか医学部長室および医学部附属病院外来が封鎖されるが、10月に解除・全面的に授業が再開された。

4代学長

清水 文彦先生

Professor Fumihiko Shimizu

1969(昭和44)年10月9日〜
1974(昭和49)年9月17日

1932年東京帝国大学医学部卒業。専門は細菌学。1961年7月より医学部長。宮本璋、北博正両教授とともに医学部附属衛生検査技師学校の設置を発案し、1962年4月初代学校長を併任。1963年4月医学部附属遺伝病研究施設長を併任。1973年、医学部の7研究施設を改組し、“難治疾患の克服”を標榜する国内唯一の国立大学附置研究所である難治疾患研究所を設置。

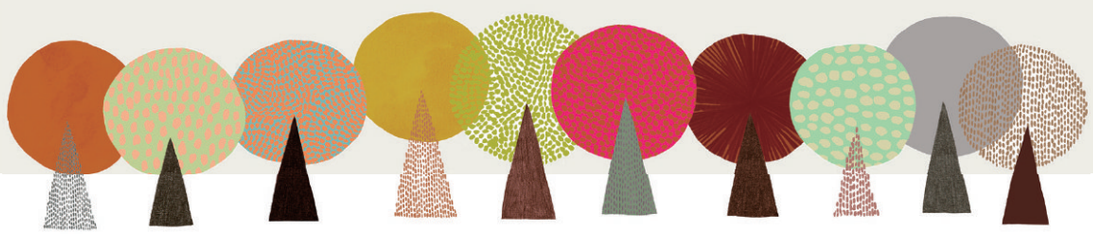
5代学長

勝木 保次先生

Professor Yasuji Katsuki

1928(昭和3)年10月13日〜
1945(昭和20)年2月9日

1905年東京帝国大学医科大学卒業。専門は歯科学。東京高等歯科医学校(東京医科歯科大学の前身)の創立者。1907年よりドイツ・ベルリン大学、ブレスラウ大学に8年間留学。1915年医術開業試験附属病院歯科医長、1928年東京高等歯科医学校校長、1944年東京医学歯学専門学校校長となり医学科を設置。1930年ドイツ・ブレスラウ大学より名誉歯学博士の学位を授与。



6代学長

吉田 久先生

Professor Hisashi Yoshida

1977(昭和52)年8月1日〜
1985(昭和60)年7月31日

1941年東京帝国大学医学部卒業。専門は小児科。信州大学教授を経て、1968年9月太田敬三前教授の後を引き継ぎ、本学小児科学教室教授に就任。1977年8月学長に就任。1978年6月14日、創立50周年を記念し、シンボルマークを制定。本学の発展の歴史とその将来のあるべき姿を、本学の所在地である湯島にちなんで、湯島天神「学問の神」の象徴である梅の花になぞらえて図案化した。

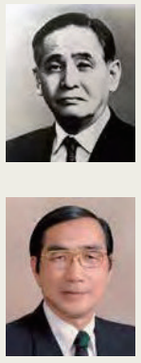
7代学長

加納 六郎先生

Professor Rokuro Kano

1985(昭和60)年8月1日〜
1991(平成3)年7月31日

1945年千葉医科大学医学部卒業。専門は公衆衛生学および医動物学。1957年公衆衛生学教室教授に昇任。1963年医動物学教室の設置とともに初代教授となる。1977年8月より医学部長。1985年8月学長に就任。1989年、国立大学で初めての4年制の医学部保健衛生学科を設置。



8代学長

山本 肇先生

Professor Hajime Yamamoto

1991(平成3)年8月1日〜
1995(平成7)年7月31日

1953年東京医科歯科大学歯学部卒業。専門は口腔病理学。初の本学出身学長。東北大学歯学部創設に尽力、東北大学教授、東北大学歯学部長を経て、1983年本学歯学部口腔病理学教授に就任。我が国歯科界におけるレーザー研究の草分けでありかつ第一人者。「レーザー照射による齲蝕予防その他歯科応用に関する研究」で1993年に第83回日本学士院賞受賞。1993年大学院医学系研究科(保健衛生学専攻)を設置。

9代学長

鈴木 章夫先生

Professor Akio Suzuki

1995(平成7)年8月1日〜
2008(平成20)年3月31日

1956年東京医科歯科大学医学部卒業。専門は心臓外科学。1960年米国にて自作の人工弁を用いて、重症弁膜症の患者の手術に人類史上初めて成功。1995年学長に就任。大学院医歯学総合研究科の設置をはじめとした大学院の重点化を推進。2004年の法人化の準備を進め、自律した運営形態で新たなスタートを切った。1996年日本医師会医学賞、1997年紫綬褒章を受章。2007年文化功労者に選出。

10代学長

大山 喬史先生

Professor Takashi Ohyama

2008(平成20)年4月1日〜
2014(平成26)年3月31日

1966年東京医科歯科大学歯学部卒業。専門は歯科補綴学、スポーツ歯学。本学のミッションとして『知と癒しの匠を創造する』と制定。ガーナ、チリ、タイに海外拠点を設置。2011年度より「医歯学融合教育」によるカリキュラムを開始。大学の国際化と医科と歯科の連携を推進。2013年研究大学強化推進事業に採択された(全国で22機関)。

11代学長

吉澤 靖之先生

ProfessorYasuyukiYoshizawa

2014(平成26)年4月1日〜
2020(令和2)年3月31日

1969年東京医科歯科大学医学部卒業。専門は呼吸器内科学。1998年医学部附属病院教授。2014年学長に就任。同年、スーパーグローバル大学創成支援事業(トップ型)に採択された(全国で13大学)。統合機構を設置するなど全学的に事業を推進する体制を構築。2020年、「Society5.0」時代の医歯学研究・医療・教育の核心に位置する全学のセンターとして、M&Dデータ科学センターの開設に尽力。

12代学長

田中 雄二郎先生

Professor Yujiro Tanaka

2020(令和2)年4月1日〜

1980年東京医科歯科大学医学部卒業。専門は消化器内科学、医学教育学。2020年学長就任直後、新型コロナウイルス感染症への対応が課題となる。早期からコロナ患者を積極的に受け入れ、東京都をコロナによる医療崩壊から救うことに大きく貢献。同年10月指定国立大学法人の指定を受ける。2021年両附属病院を統合し、東京医科歯科大学病院とする。2022年、東京工業大学と統合に向けた協議を開始し、1法人1大学とすることに合意。

QS 世界大学ランキングで国内外から高評価を獲得

歯学分野で世界第４位、国内１位の高い評価（分野別ＱＳ世界大学ランキング 2024）

英国の大学評価機関「クアクアレリ・シモンズ（QS）」が 2024 年４月 10 日に発表した分野別 QS 世界大学ランキングにおいて、以下のような高評価を獲得しました。

表　分野別ＱＳ世界大学ランキング（歯学分野・医学分野）における東京医科歯科大学の順位（2024）

		歯学分野 Dentistry	医学分野 Medicine
順位	日本	1位	4位
	世界	4位	128位
	アジア	2位	19位

特に歯学分野では、世界トップ５にランクインした日本で唯一の大学です。

世界第１位の評価項目

また歯学分野において、東京医科歯科大学は以下の項目で世界第１位を獲得しています。

•Academic Reputation（学術的評価）：世界中の大学教員による評価

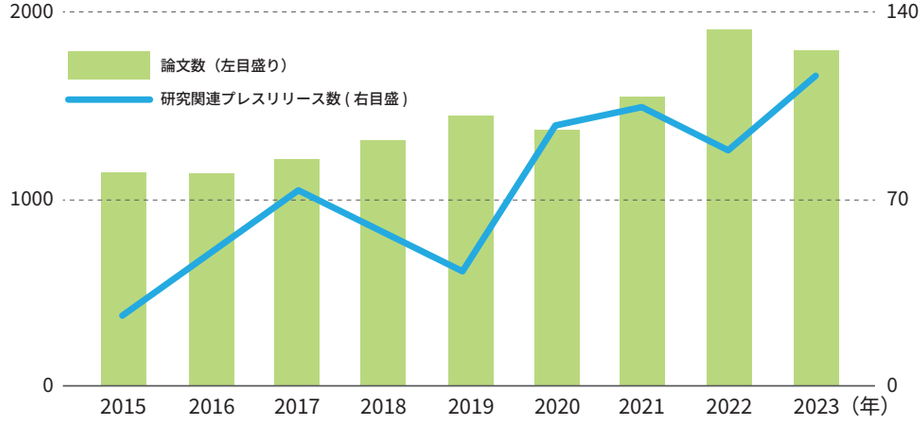
•Employer Reputation（雇用主からの評価）：世界中の雇用主による評価

東京医科歯科大学は、これらの成果を維持し、さらなる発展を目指してまいります。

医科歯科大発 輝かしい研究の歩み

まもなく開学100年を迎える本学からはこれまで数多くの研究成果が発信されてきました。 近年の研究関連論文数は毎年1,000報を超え、2,000報に迫る勢いで推移しています(図参照)。 本特集では本学を代表する研究の足跡を追ってみました。- 広報部 -

論文数と研究関連プレスリリース数



2000年以前

●主な受賞者の研究

まず、2000年以前の研究の足跡を振り返るため、表1に本学関係者の主要な国内受賞者リストを示しました。本学関係者にはさまざまな国内外関連団体からの受賞者がおられますが、ここでは文化勲章、文化功労者、日本学士院賞、紫綬褒章の4つの受賞者の中から、ご紹介します。

勝木保次氏(医学部教授[1949年]、5代目学長[1974年])

微小電極法の開発実用化、普及に貢献しました。聴覚研究の世界的権威であり、その研究は日本の神経生理学の近代化、世界的高水準を保つ原動力となりました。その功績により、日本学士院賞(1963年)、文化功労者、文化勲章(1973年)を授与されました。

大塚正徳氏(医学部教授[1966年])

ガンマ・アミノ酪酸(GABA)や脳内ペプチドの一種であるサブスタンスPが神経伝達物質として機能することを明らかにし、現在のペプチド神経伝達物質の概念の確立に貢献しました。その功績により、日本学士院賞(1983年)を受賞しました。

須田立雄氏(歯学部助教授[1971年])(1960年歯学部卒)

骨代謝研究の第一人者であり、ビタミンDの代謝調節やその臨床応用等に取り組み、強力な生理作用を持つ活性型ビタミンDの構造を決定し、骨粗鬆症の治療薬となる合成誘導体を考案しました。また、破骨細胞誘導因子ODF/RANKLを発見するなど、多くの顕著な業績をあげました。その功績により、日本学士院賞(2001年)、文化功労者(2021年)を授与されました。

笹月健彦氏(難治疾患研究所教授[1977年])

ヒト白血球抗原(HLA)が胸腺における多様な免疫応答の枠組決定と末梢における個々の免疫応答の制御に関与することを示し、感染症や複雑な疾病の病因解明と克服への道を拓きました。その功績により、紫綬褒章(2002年)を受章しました。

●主な受賞者の研究

ここでは本学発の研究で今もなお実用化され続けている代表例をいくつかご紹介します。

増原英一氏(生体材料工学研究所教授[1955年])(1941年歯学部卒)
中林宣男氏(同教授[1981年])
総山孝雄氏(歯学部教授[1960年])(1938年歯学部卒)
三浦不二夫氏(同教授[1962年])(1947年歯学部卒)

接着性樹脂(レジン)の開発初期に関わる研究を推進し、現在の歯科治療で用いられる接着性樹脂の開発と実用化に大きく貢献しました。これらの功績により、4氏は紫綬褒章(順に1981年、2001年、1983年、1989年)を受章しました。

山本肇氏(歯学部教授[1983年])

初の本学出身学長[1991年])(1953年歯学部卒)は、レーザー照射によるう蝕予防等に関する研究を推進しました。日本の歯科分野におけるレーザー研究の草分けでありかつ第一人者でありました。その功績により、日本学士院賞(1993年)を受賞しました。

鈴木賢策氏(歯学部教授[1947年])(1933年歯学部卒)
砂田今男氏(同教授[1977年])(1953年歯学部卒)

長年研究、開発された電気的根管長測定機は、う蝕治療に不可欠であり、現在でも世界中の歯科医が標準的診療として同じ原理の医療デバイスを使用しています。その功績により、鈴木賢策氏は1981年に、砂田今男氏は1991年に紫綬褒章を受章しました。

文化勲章受章者	
勝木保次	1973年

文化功労者	
勝木保次	1973年
鈴木章夫	2007年
須田立雄	2021年
中村祐輔	2021年

日本学士院賞受賞者	
岡田正弘	1959年
勝木保次	1963年
大塚正徳	1983年
山本 肇	1993年
青木延雄	2001年
須田立雄	2001年
藤吉好則	2008年
田中啓二	2010年
高柳 広	2019年
一條秀憲	2021年
狩野方伸	2023年

紫綬褒章受章者	
堀口申作	1974年
島本多喜雄	1974年
増原英一	1981年
鈴木賢策	1981年
総山孝雄	1983年
萬年 甫	1987年
三浦不二夫	1989年
砂田今男	1991年
中尾 真	1991年
青木延雄	1996年
鈴木章夫	1997年
中林宣男	2001年
笹月健彦	2002年
藤吉好則	2006年
一條秀憲	2019年
水島 昇	2021年
中山敬一	2021年

2000年以降

●秀でた原著論文が示す研究

ここでは、被引用数が1,000を超える原著論文を複数執筆している研究者を紹介します(表2参照)。なお、本学の研究関連データベースで振り返られるのは1990年後半からとなります。

一條秀憲氏(歯学部教授[1998年])(1985年歯学部卒)

ストレス応答性キナーゼの研究を長きにわたり続け、多くの注目すべき研究を示しました。その功績により紫綬褒章(2019年)、日本学士院賞(2021年)を受賞しました。

高柳広氏(歯学部教授[2003年])

免疫系による骨代謝制御に焦点をあてた骨免疫学という独自の分野を提唱し、多くの注目すべき研究を示しました。その功績により、日本学士院賞(2019年)を受賞しました。

水島昇氏(医学部教授[2006年])(1991年医学部卒)

ノーベル賞受賞者である大隈良典氏の研究の屋台骨を支えた一人であり、オートファジーの研究をヒトの細胞に発展させ、その分子メカニズムを明らかにしました。表2には示していないものの被引用数が5000を超えるレビューなどを加えるとその数は抜きんでた実績を誇ります。その功績により、紫綬褒章(2021年)を受章しました。

表2 顕著な被引用数論文を持つ研究者

研究者	媒体	発行年	被引用数
水島 昇	Nature	2206	3279
	Nature	2004	2484
	Molecular Biology of the Cell	2004	2002
一條秀憲	EMBO journal	1988	2131
	Science	1997	2074
	Genes and Development	2002	1189
高柳 広	Developmental Cell	2002	2103
	Nature Medicine	2011	1343
	Journal of Experimental Medicine	2006	1252

●近年目覚ましく発展する研究分野

2000年以降、生命医科学の分野ではゲノム研究や再生医学が目覚ましく発展しています。また、ゲノム研究とともに発展し注目される分野として核酸医薬が挙げられます。これらの分野でも本学の多くの研究者が、その発展に寄与しています。その中から、いくつかご紹介します。

三木義男氏(難治疾患研究所教授[2002年])

遺伝性乳がんの原因遺伝子BRCA1を単離し、その後も遺伝性乳がん・卵巣がんの遺伝医療・がん診療の構築及び乳がんを中心とした分子腫瘍学の研究を推進し、医療に貢献しました。

横田隆徳氏(大学院医歯学総合研究科教授[2014年])(1984年医学部卒)

独自に開発した新規の核酸医薬を発展させ、難病の原因分子の制御を目指しています。

位高啓史氏(生体材料工学研究所教授[2017年])

mRNA医薬からワクチンの開発やさまざまな疾患に対する医療薬の開発を進めています。

武部貴則氏(統合研究機構教授[2018年])

多能性幹細胞を用いた肝胆膵領域の分化誘導研究において、血管・間質・免疫・隣接器官系などを含む複雑なオルガノイドの創出に成功し、これらを駆使し、創薬、ゲノム医療、移植医療開発を目指した研究へと展開しています。

●プレスリリースから

広報部では、本学の研究を広く社会に知ってもらうために、毎年 100 回に迫るプレスリリースを行っています(P64 図参 照)。中でも西村栄美氏(難治疾患研究所教授[2009 年])による白髪の研究は再生医学の観点からも世の中の注目を集め、論文発表の記者会見には大手のテレビ局、新聞社のほとんどが参加し、会場が いっぱいになりました。論文発表の記者会見 としては最もメディアが集まったものでした。

最後に、これまで基礎研究から臨床研究において多大なる実績をあげ、広く社会に貢献しているにも関わらず、紙面の都 合もあり本特集で紹介できなかった多くの関係者の方々にお詫び申し上げます。 そして、本特集をまとめるにあたり、田中雄二郎学長並びに廣川勝昱名誉教授からは貴重な情報提供とアドバイスをいた だきました。また、各部局より研究業績に関する情報提供を、IR 室より研究関連データベース解析の情報提供をいただきました。全ての関係者の方々に感謝申し上げます。

本特集をまとめるにあたり多くの先人について調べ ていた中で、宮本璋氏の名前に出会い、明治、大正、昭和と激動の時代を生き抜いた氏の半生は数々のエピ ソードに富んだものであったことを知りました。 医学部教授(1947年)で初代医学部長(1949年)であった宮本璋氏は電気泳動学の権威でありながら、全く畑違いと思われる農村医学の先駆者でもありまし た。氏は自らの研究に邁進するためには「学位も医師
免許も必要ない」として東大医学部を卒業後、医師免 許を取得しませんでした。また、「安騎東野」(あんき・とうや)というペンネームの随筆家としても活躍しま した。 興味のある方は『評伝「秀でた遺伝子」―佐久間象山 と宮本家の人々』をご一読いただければと思います。 近代史で目にするような有名な方々が氏を取り巻く様 に驚くことでしょう。

東京医科歯科大学　進む産学連携・イノベーション

知的財産の創出支援等を通じた産学官連携、イノベーション及び研究活動の支援並びに臨床研究を推進する「統合イノベーション機構」が中心となり、産学連携が次のように進んでいます。

1. 研究力・技術革新の評価

東京医科歯科大学は、医療分野における最先端技術の研究拠点として国内外から注目されています。寄附講座などを通じて多くの企業と連携し、基礎研究と応用研究の両面で成果を上げることで、世界的な研究評価が高まっています。

2. 産学連携のリーダーシップ

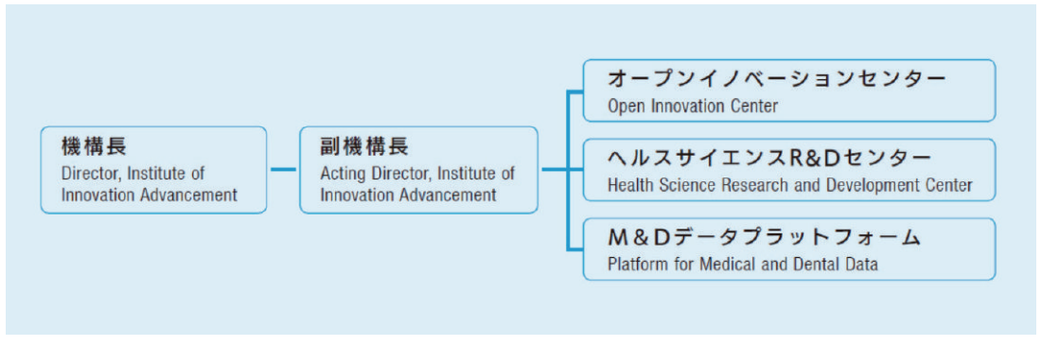
多くの企業や自治体と共同で研究を進めているため、東京医科歯科大学は産学連携のモデル校として評価されております。特に医療技術の開発や新しい治療法の実用化に貢献することで、社会的責任（CSR）の遂行と地域（首都圏エリア）の医療への貢献が認められています。

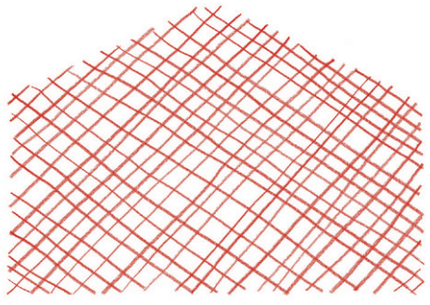
3. 国際ランキングの向上

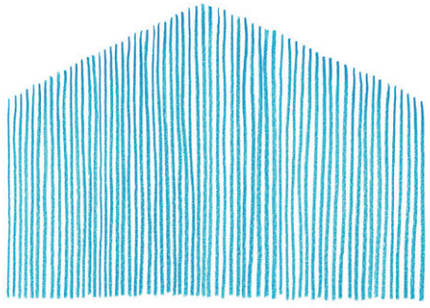
産学連携や外部資金の獲得は、大学の国際ランキングにおいても重要な評価基準です。これにより、QSやTHEなどの世界大学ランキングでの順位向上が期待され、国際的な知名度が高まりつつあります。

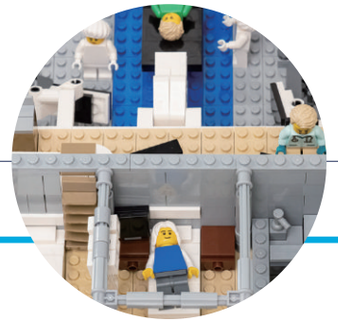
4. 学生・研究者へのメリット

企業との連携により、研究資金や最先端設備を活用した教育が提供され、学生や若手研究者のキャリア支援が充実しています。これにより、高度な専門知識を持つ医療人材の育成を推進しています。









寄附講座・寄附研究部門
Endowed Departments

（2023年5月1日現在）
(as of May 1, 2023)

大学院医歯学総合研究科 Graduate School of Medical and Dental Sciences

寄附講座・寄附研究部門名 Endowed Departments	設置期間 Term	寄附者 Donor
肝臓病態制御学講座 Liver Disease Control	2006.4.1 - 2025.3.31	富士レビオ（株）／アボットジャパン株式会社 Fujirebio Inc / Abbott Japan LLC
軟骨再生学講座 Cartilage Regeneration	2006.6.1 - 2026.3.31	京セラ（株）／医療法人八重瀬会同仁病院 Kyocera Corporation / Doujin Hospital
消化管先端治療学講座 Advanced Therapeutics for GI Diseases	2007.4.1 - 2025.3.31	杏林製薬（株）／ゼリア新薬工業（株）／ミヤリサン新薬工業（株） Kyorin Pharmaceutical Co., Ltd./Zeria Pharmaceutical Co.,Ltd. / Miyarisan Pharmaceutical Co.,Ltd.
整形外傷外科治療開発学講座 Orthopaedic and Trauma Research	2007.8.1 - 2024.3.31	日本ストライカー（株）／メドトロニックソファモアダネック（株）／ 長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院／組合立諏訪中央病院／医療法人八重瀬会 同仁病院／（公社）東京都医療保健協会練馬総合病院／HOYA（株）／（株）Magic Shields Stryker Japan K.K. / Medtronic Sofamor Danek, Co., Ltd. / Saku Central Hospital Nagano Prefectural federation of Agricultural Cooperatives for Health and Welfare / Suwa Chuo Hospital / Doujin Hospital / Nerima General Hospital / HOYA Corporation. / Magic Shields, Inc.
呼吸・睡眠制御学講座 Respiratory Physiology and Sleep Medicine	2009.6.1 - 2024.3.31	フクダライフテック東京（株）／フィリップス・ジャパン／エア・ウォーター・メディカル（株）／（株）メトラン Fukuda Life Tech Tokyo Co., Ltd. / Philips Japan, Ltd. / AIR WATER MEDICAL INC. / Metran Co., Ltd.
茨城県小児・周産期地域医療学講座 Pediatrics, Perinatal and Maternal Medicine (Ibaraki)	2014.4.1 - 2025.3.31	茨城県厚生農業協同組合連合会 JA Ibaraki kouseiren
血管代謝探索講座 Nutrition and Metabolism in Cardiovascular Disease	2014.10.1 - 2027.3.31	一般社団法人動脈硬化研究奨励会 Arteriosclerosis Research Foundation
茨城県腎臓疾患地域医療学講座 Nephrology and Regional Health (Ibaraki)	2015.11.1 - 2024.3.31	茨城県厚生農業協同組合連合会 JA Ibaraki kouseiren
生涯免疫難病学講座 Lifetime Clinical Immunology	2016.4.1 - 2024.3.31	CSLベーリング（株）／大正製薬（株） CSL Behring K.K. / Taisho Pharmaceutical Co., Ltd.
先進不整脈学講座 Advanced Arrhythmia Research	2018.4.1 - 2024.3.31	（株）ウイン・インターナショナル／日本メドトロニック（株）／日本ライフライン（株）／ボストン・サイエンティフィック ジャパン（株）／（株）APEX WIN INTERNATIONAL CO.,LTD. / Medtronic Japan Co., Ltd. / Japan Lifeline Co., Ltd. / Boston Scientific Japan K.K. / APEX Inc.
消化器連携医療学講座 Collaborative Medicine for Gastroenterology and Hepatology (CMGH)	2018.5.1 - 2024.3.31	茨城県厚生農業協同組合連合会 JA Ibaraki kouseiren
小児地域成育医療学講座 Child Health and Development	2018.7.1 - 2024.3.31	公益財団法人柏市医療公社 Kashiwa City Medical Treatment Public Corporation
東京都地域医療政策学講座 Tokyo Metropolitan Health Policy Advisement	2019.4.1 - 2024.3.31	東京都 Tokyo Metropolitan Government
茨城県北西部地域医療学講座 Community Medicine (Ibaraki)	2020.3.10 - 2026.3.31	常陸大宮市 Hitachiomiya City
茨城県地域産科婦人科学講座 Women's Health	2020.4.1 - 2030.3.31	茨城県／茨城県厚生農業協同組合連合会 Ibaraki Prefectural Government / JA Ibaraki kouseiren
肺免疫治療学講座 Pulmonary Immunotherapeutics	2020.10.1 - 2026.3.31	和興フィルターテクノロジー（株）／カーコンビニ倶楽部株式会社／インターパーク倉持呼吸器内科／コニカミノルタ株式会社 Wako Filter Technology Ltd. / Car Conveni Club Co.,Ltd. / Kuramochi Clinic Interpark/Konica Minolta, Inc.
先端人工知能医用画像診断学講座 Architectural Intelligence (AI) Radiology	2021.4.1 - 2024.3.31	医療法人社団豊智会

ジョイントリサーチ講座・ジョイントリサーチ部門
Joint Research Departments

（2023年5月1日現在）
(as of May 1, 2023)

ジョイントリサーチ講座・ジョイントリサーチ部門名 Departments	設置期間 Term	共同研究企業等 Joint Research Partners
先端技術医療応用学講座 Advanced Technology in Medicine	2015.4.1 - 2024.3.31	TDK 株式会社／株式会社リコー TDK Corporation / Ricoh Company, Ltd.
運動器機能形態学講座 Functional Joint Anatomy	2016.4.1 - 2024.3.31	一般社団法人 JA 共済総合研究所 JA Kyosai Research Institute
先端視覚画像医学講座 Advanced Ophthalmic Imaging	2018.4.1 - 2024.3.31	株式会社ニデック NIDEK CO., LTD.
細胞構造生理学研究部門（CeSPJRL） Cellular and Structural Physiology (CeSPJRL)	2019.4.1 - 2024.3.31	日本電子株式会社／株式会社 CeSPIA JEOL LTD. / CeSPIA Inc.
介護・在宅医療連携システム開発学講座 R&D Innovation for Home Care Medicine	2020.4.1 - 2024.3.31	株式会社シーユーシー CUC Inc.
未病制御学研究部門 Precision Health	2021.4.1 - 2024.3.31	イチビキ株式会社／株式会社 ADEKA ／株式会社バイオコクーン研究所 ICHIBIKI Co., Ltd. / ADEKA Co., Ltd. / Biococoon Laboratories, Inc. 株式会社ユーグレナ／株式会社ニップン／インテグリカルチャー株式会社 euglena Co.,Ltd. / NIPPN Co., Ltd. / IntegriCulture Inc. 株式会社ビオック／シンクランド株式会社／東亜薬品工業株式会社 Bio'c Co., Ltd. / Think-Lands Co., Ltd / TOA Biopharma Co., Ltd.
次世代画像装置開発学講座 Next Generation Imaging Device Development	2022.8.1 - 2025.7.31	株式会社エフ・イー・ティー・ジャパン FET Japan, Inc.
構造生物学講座 Structural Biology and Biochemistry	2023.4.1 - 2025.3.31	リベロセラ株式会社 LiberoThera Co., Ltd.

東京医科歯科大学　世界に拡がる協定校・世界から集う留学生

国際交流協定／大学間等協定
Overseas Affiliated Universities / Inter-University Agreements

アメリカ合衆国
United States of America
- カリフォルニア大学 サンディエゴ校
  University of California, San Diego
- ネバダ大学リノ校
  University of Nevada, Reno
- 南カリフォルニア大学
  University of Southern California

インドネシア共和国
Republic of Indonesia
- インドネシア大学
  University of Indonesia

エクアドル共和国
Republic of Ecuador
- エクアドル保健省
  Ministry of Public Health of Ecuador

ガーナ共和国
Republic of Ghana
- ガーナ大学
  University of Ghana

タイ王国
Kingdom of Thailand
- チュラロンコーン大学
  Chulalongkorn University
- マヒドン大学
  Mahidol University

台湾
Taiwan (ROC)
- 台北医学大学
  Taipei Medical University

中華人民共和国
People's Republic of China (PRC)
- 中国医科大学
  China Medical University

パラグアイ共和国
Republic of Paraguay
- パラグアイ国保健省及びクリニカ・ラス・コンデス
  Ministry of Health of Paraguay and Clínica Las Condes

フィリピン共和国
Republic of the Philippines
- フィリピン大学マニラ校
  University of the Philippines Manila (UPM)

ベトナム社会主義共和国
Socialist Republic of Vietnam
- フエ医科薬科大学
  Hue University of Medicine and Pharmacy

国際交流協定／学部間等協定
Overseas Affiliated Universities / Inter-Faculty Agreements

大学院医歯学総合研究科（医学系・生体検査科学系）・大学院保健衛生学研究科・医学部
Graduate School of Medical and Dental Sciences (Medical Division / Biomedical Laboratory Sciences Division) / Graduate School of Health Care Sciences / Faculty of Medicine

アメリカ合衆国
United States of America
- ワシントン大学看護学部
  School of Nursing, University of Washington
- ヴァンダービルト大学メディカルセンター(VUMC)
  Vanderbilt University Medical Center (VUMC)

英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)
United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
- インペリアル・カレッジ医学部
  Faculty of Medicine, Imperial College of Science, Technology and Medicine

オーストラリア連邦
Commonwealth of Australia
- オーストラリア国立大学医学部
  Medical School, The Australian National University
- オーストラリア国立大学ジョン・カーティン医学研究所
  John Curtin School of Medical Research, The Australian National University

ガーナ共和国
Republic of Ghana
- ガーナ大学健康科学部野口記念医学研究所
  Noguchi Memorial Institute for Medical Research, College of Health Sciences, University of Ghana

タイ王国
Kingdom of Thailand
- 国立がんセンター
  National Cancer Institute, Thailand
- チェンマイ大学医学部
  Faculty of Medicine, Chiang Mai University
- チュラロンコーン大学医学部
  Faculty of Medicine, Chulalongkorn University
- チュラロンコーン大学保健医療学部
  Faculty of Allied Health Sciences, Chulalongkorn University
- マヒドン大学シリラート病院医学部
  Faculty of Medicine, Siriraj Hospital, Mahidol University
- マヒドン大学ラマチボディ病院医学部
  Faculty of Medicine, Ramathibodi Hospital, Mahidol University
- プリンセスサリーサワーンカワット医科大学, チュラポーンロイヤルアカデミー
  Princess Srisavangavadhana College of Medicine, Chulabhorn Royal Academy

大韓民国
Republic of Korea
- ソウル国立大学医学部
  College of Medicine, Seoul National University

台湾
Taiwan (ROC)
- 国防医学院医学部
  School of Medicine, National Defense Medical Center
- 国立台湾大学医学部
  College of Medicine, National Taiwan University

タンザニア連合共和国
United Republic of Tanzania
- ドドマ大学
  University of Dodoma (UDOM)

チリ共和国
Republic of Chile
- チリ大学医学部
  Faculty of Medicine, University of Chile

フィンランド共和国
Republic of Finland
- セイナヨキ応用科学大学
  Seinajoki University of Applied Sciences
- タンペレ大学健康科学部
  School of Health Sciences, University of Tampere

大学院医歯学総合研究科（歯学系）・歯学部
Graduate School of Medical and Dental Sciences (Dental Division) / Faculty of Dentistry

アメリカ合衆国
United States of America
- カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部
  School of Dentistry, University of California San Francisco
- タフツ大学歯学部
  School of Dental Medicine, Tufts University
- ノースキャロライナ大学歯学部
  School of Dentistry, The University of North Carolina at Chapel Hill
- ハーバード大学歯学部
  Harvard School of Dental Medicine
- ペンシルバニア大学歯学部
  School of Dental Medicine, University of Pennsylvania
- ボストン大学歯学部
  Boston University Henry M. Goldman School of Dental Medicine
- ミシガン大学歯学部
  School of Dentistry, University of Michigan

アラブ首長国連邦
United Arab Emirates
- ガルフ医科大学歯学部
  College of Dentistry, Gulf Medical University

インドネシア共和国
Republic of Indonesia
- インドネシア大学歯学部
  Faculty of Dentistry, University of Indonesia
- トリサクティ大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Trisakti University

英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)
United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
- キングス・カレッジ・ロンドン歯学部
  King's College London, Faculty of Dentistry, Oral & Craniofacial Sciences

オーストラリア連邦
Commonwealth of Australia
- シドニー大学歯学部
  Faculty of Dentistry, University of Sydney
- メルボルン大学健康科学部歯学科
  Faculty of Medicine, Dentistry and Health Sciences, The University of Melbourne

カナダ
Canada
- マギル大学歯学部
  Faculty of Dentistry, McGill University

カンボジア王国
Kingdom of Cambodia
- カンボジア健康科学大学歯学部
  University of Health Sciences, Faculty of Dentistry, Phnom Penh Cambodia

サウジアラビア王国
Kingdom of Saudi Arabia
- キング・アブドゥルアズィーズ大学歯学部
  Faculty of Dentistry, King Abdulaziz University

シンガポール共和国
Republic of Singapore
- シンガポール国立大学歯学部
  Faculty of Dentistry, the National University of Singapore

スイス連邦
Swiss Confederation
- チューリッヒ大学医学部歯科医学センター
  Faculty of Medicine, Center of Dental Medicine, University of Zurich

スウェーデン王国
Kingdom of Sweden
- ヨーテボリ大学サールグレンスカアカデミー歯学部
  The Institute of Odontology, The Sahlgrenska Academy, University of Gothenburg

スリランカ民主社会主義共和国
Democratic Socialist Republic of Sri Lanka
- ペラデニヤ大学歯学部
  Faculty of Dental Sciences, University of Peradeniya

タイ王国
Kingdom of Thailand
- コンケン大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Khon Kaen University
- シーナカリンウィロット大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Srinakharinwirot University
- ソンクラ王子大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Prince of Songkla University
- チェンマイ大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Chiang Mai University
- チュラロンコーン大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University
- ナレスワン大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Naresuan University
- マヒドン大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Mahidol University

大韓民国
Republic of Korea
- 慶北大学歯学部
  School of Dentistry, Kyungpook National University
- ソウル大学校歯学部
  School of Dentistry, Seoul National University
- 全南大学歯学部
  School of Dentistry, Chonnam National University

台湾
Taiwan (ROC)
- 国防医学院歯学部
  School of Dentistry, National Defense Medical Center
- 国立台湾大学歯学部
  School of Dentistry, National Taiwan University
- 台北医学大学口腔医学院
  College of Oral Medicine, Taipei Medical University
- 高雄医学大学口腔医学院
  College of Dental Medicine, Kaohsiung Medical University
- 中国医薬大学歯学部・大学院歯学研究科
  School of Dentistry / Graduate School of Medical and Dental Sciences, China Medical University

チェコ共和国
Czech Republic
- マサリク大学医学部口腔科学科
  Faculty of Medicine, Masaryk University

中華人民共和国
People's Republic of China (PRC)
- 吉林大学口腔医学院
  School of Stomatology, Jilin University
- 四川大学華西口腔医学院
  West China School of Stomatology, Sichuan University
- 首都医科大学口腔医学院
  School of Stomatology, Capital Medical University
- 大連医科大学口腔医学院
  Dental Faculty, Dalian Medical University
- 同済大学口腔医学院
  School of Stomatology, Tongji University
- 内蒙古医科大学
  Inner Mongolia Medical College
- 北京大学口腔医学院
  School of Stomatology, Peking University
- 香港大学歯学部
  Faculty of Dentistry, The University of Hong Kong

デンマーク王国
Kingdom of Denmark
- コペンハーゲン大学健康科学部歯学科
  School of Dentistry, Faculty of Health Sciences, University of Copenhagen

ブラジル連邦共和国
Federative Republic of Brazil
- サンパウロ大学/パウル校顎顔面先天異常リハビリテーション病院(サンパウロ大学パウル校歯学部を含む)
  The Hospital for the Rehabilitation of Craniofacial Anomalies and Bauru Dentistry School of Sao Paulo University

難治疾患研究所
Medical Research Institute

英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)
United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
- ダンディー大学
  University of Dundee

シンガポール共和国
Republic of Singapore
- シンガポール国立大学癌研究所
  Cancer Science Institute of Singapore, National University of Singapore

ベトナム社会主義共和国
Socialist Republic of Vietnam
- ハノイ歯科大学
  University of Odonto-Stomatology, Hanoi
- ホーチミン医科薬科大学歯学部
  Faculty of Odonto-Stomatology, University of Medicine and Pharmacy at Ho Chi Minh City

マレーシア
Malaysia
- マラヤ大学歯学部
  Faculty of Dentistry, University of Malaya

ミャンマー連邦共和国
Republic of the Union of Myanmar
- マンダレー歯科大学
  University of Dental Medicine, Mandalay
- ヤンゴン歯科大学
  University of Dental Medicine, Yangon

モンゴル国
Mongolia
- モンゴル国立医科大学歯学部
  School of Dentistry, Mongolian National University of Medical Sciences

ラオス人民民主共和国
Lao People's Democratic Republic
- ラオス国立大学医科学部歯学科
  Faculty of Medical Sciences, National University of Laos

タイ王国
Kingdom of Thailand
- チュラロンコーン大学歯学部
  Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University

大韓民国
Republic of Korea
- ソウル国立大学分子生物学・遺伝学研究所
  Institute of Molecular Biology and Genetics, Seoul National University

中華人民共和国
People's Republic of China (PRC)
- 上海生命情報技術センター(SCBIT)
  Shanghai Center for Bioinformation Technology (SCBIT)
- 中国医科大学
  China Medical University
- 北京協和医学院
  Peking Union Medical College

ドイツ連邦共和国
Federal Republic of Germany
- ドイツ・リウマチ疾患研究センター(ベルリン)
  Deutsches Rheuma-Forschungszentrum Berlin
- ハイデルベルグ大学生命情報学部
  Faculty of Biosciences, University of Heidelberg

生体材料工学研究所
Institute of Biomaterials and Bioengineering

英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)
United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
- ストラスクライド大学バイオエンジニアリングユニット
  Bioengineering Unit, University of Strathclyde
- ロンドン大学クイーンメアリー生体医用材料総合研究センター
  Interdisciplinary Research Centre in Biomedical Materials, Queen Mary University of London

スウェーデン王国
Kingdom of Sweden
- リンシェピン大学医用生体工学科
  Department of Biomedical Engineering, Linköping University

タイ王国
Kingdom of Thailand
- チュラロンコーン大学工学部
  Faculty of Engineering, Chulalongkorn University

大韓民国
Republic of Korea
- 慶北大学生体材料研究所
  Institute for Biomaterials Research and Development, Kyungpook National University

ポーランド共和国
Republic of Poland
- ポーランド科学アカデミーバイオサイバネティクス・生体工学研究所及びバイオサイバネティクス国際センター
  Institute of Biocybernetics and Biomedical Engineering and International Center of Biocybernetics, Polish Academy of Science
- フライブルグ大学
  Spemann Graduate School of Biology and Medicine, University of Freiburg
- フンボルト大学
  Center of Infection Biology and Immunity, Humboldt University

フランス共和国
French Republic
- リヨン高等師範学校
  École Normale Supérieure de Lyon

ベトナム社会主義共和国
Socialist Republic of Vietnam
- ハノイ医科大学
  Hanoi Medical University

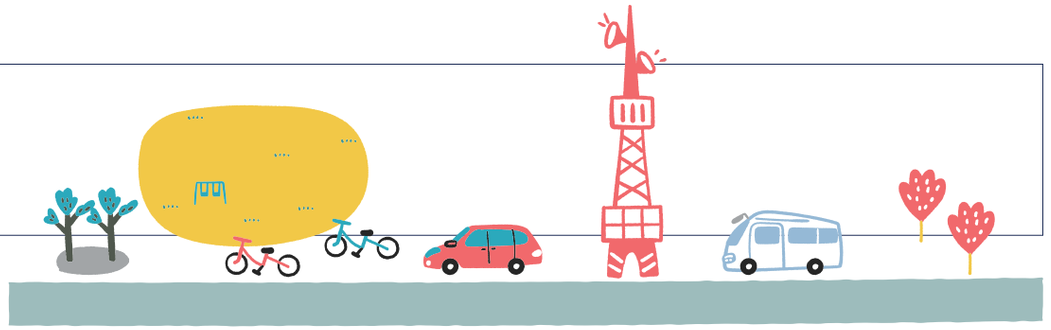
ポーランド共和国
Republic of Poland
- グダニスク医科大学
  Medical University of Gdansk

外国人留学生在籍者数（2023年5月1日現在）	
国費留学生	93人
私費留学生	274人
所属先	
大学院生	321人
大学生	12人
大学院研究生	34人

国別留学生数ベスト7	
中華人民共和国	231人
ミャンマー連邦共和国	22人
タイ王国	20人
ガーナ共和国	12人
台湾	9人
ベトナム社会主義共和国	7人
大韓民国	6

国際交流協定校（大学同等）	
10か国13校	
所属先	
医学部	10か国20校
歯学部	24か国53校
難治疾患研究所	9か国14校
生体材料研究所	5か国6校

東京医科歯科大学　新型コロナウイルス感染症との戦い



主な COVID-19 関連の研究成果 (共同研究も含む)

2024 年 4 月 3 日	「裸の mRNA」からなる安全な新型コロナウイルスワクチンの開発に成功
2024 年 1 月 5 日	小児 COVID-19 肺炎における Ⅰ 型インターフェロン中和抗体の保有率を調査
2023 年 11 月 1 日	感染症に強い社会づくりに貢献する研究・教育・診療を推進する 「TMDU 感染症センター」が設立
2023 年 10 月 13 日	ヒト血管オルガノイドを用いた新型コロナウイルス重症化メカニズムの解明 ―補体代替経路を標的とする血管炎の新たな治療薬開発に光―
2023 年 7 月 13 日	肺胞マクロファージを介した COVID-19 の重症化メカニズムを解明
2023 年 5 月 22 日	内臓脂肪の増加が COVID-19 のリスクとなるメカニズムを解明
2023 年 4 月 17 日	COVID-19 に関連した小児突然死の背景にある希少疾患の診断に成功
2022 年 11 月 2 日	SARS-CoV-2 のメインプロテアーゼに対する高活性かつ生体内安定型阻害剤の創製
2022 年 10 月 27 日	新型コロナウイルス世界最速検出装置の小型化・低コスト化 ―汎用的な感染症診断装置としての実用化に期待―
2022 年 10 月 5 日	集中治療を要する新型コロナウイルス感染症患者に対するレムデシビルと副腎皮質ステロイドの併用効果：TMDU 観察研究
2022 年 8 月 22 日	「コロナ制圧タスクフォース」COVID-19 患者由来の血液細胞における遺伝子発現の網羅的解析
2022 年 8 月 8 日	「コロナ制圧タスクフォース」COVID-19 疾患感受性遺伝子 DOCK2 の重症化機序を解明
2022 年 5 月 30 日	デルタ株の特徴に類似した変異が追加された国内由来 BA.2 系統の市中感染事例をさらに確認 ～第 6 波の下げ止まりから感染再拡大（第 7 波）への懸念～～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 14 報～
2022 年 5 月 26 日	新型コロナウイルスの超高感度・全自動迅速検出装置の開発 ―汎用的な感染症診断装置としての社会実装に期待―
2022 年 5 月 2 日	デルタ株の特徴が追加された国内由来オミクロン株 BA.2 系統の市中感染事例を初めて確認 ～第 6 波長期化への懸念～～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 13 報～
2022 年 2 月 25 日	新たな変異を有するオミクロン系統株を含む BA.1.1 系統株の流行拡大、および BA.2 系統株への置き換わりに影響をおよぼす可能性 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 12 報～
2022 年 1 月 31 日	「オミクロン系統株：BA.2 の新たな市中感染、および本邦において長期間存続しているデルタ系統株へのさらなる市中感染事例を確認」 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 11 報～
2022 年 1 月 18 日	北米地域で確認されているオミクロン系統株の本邦市中流行、および市中に長期間存続しているデルタ系統株への感染事例を確認 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 10 報～
2022 年 1 月 17 日	新型コロナウイルス感染症スーパースプレッダーの特徴 ～高いウイルスコピー数を有し、周囲に感染を拡大するスーパースプレッダーの決定要因の発見～
2021 年 12 月 16 日	コロナ禍での集中治療室におけるタブレット貸出による面会の効果 ―オンライン面会と患者家族のメンタルヘルス・ケア―
2021 年 11 月 29 日	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による重症呼吸不全治療に関する同意説明の現状調査 ―当事者である患者と家族が意思決定を迫られたとき―
2021 年 11 月 9 日	COVID-19 による保育所閉鎖が日本の未就学児における非認知スキル（社会情動的スキル）に与える影響
2021 年 9 月 7 日	N501S 変異を有する新たなデルタ株（B.1.617.2 系統）のブレイクスルー感染事例を確認 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 9 報～
2021 年 8 月 30 日	N501S 変異を有する新たなデルタ株（B.1.617.2 系統）の市中感染事例 (国内第 1 例目) を確認 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 8 報～
2021 年 8 月 5 日	デルタ株（B.1.617.2 系統）およびデルタ亜系統株（AY.3 系統）の市中感染共存事例を確認 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 7 報～
2021 年 7 月 29 日	「コロナ制圧タスクフォース」世界最大の新型コロナウイルス感染症のゲノムワイド関連解析にアジア最大のグループとして貢献 ―新型コロナウイルス感染症の重症化に関わる遺伝子多型を同定―
2021 年 6 月 1 日	クラウドファンディングプロジェクト「世界初の腸呼吸で、呼吸に苦しむ患者さんを助けたい」
2021 年 5 月 20 日	腸呼吸の応用により、呼吸不全の治療に成功! ―腸換気技術を用いた新たな呼吸管理法の開発へ光―
2021 年 5 月 18 日	「コロナ制圧タスクフォース」日本人集団における新型コロナウイルス感染症重症化因子の有力候補を発見 ―アジア最大のグループとして新型コロナウイルス感染症国際ゲノム研究にも大きな貢献―
2021 年 5 月 14 日	「インド型 SARS-CoV-2 系統株（B.1.617 系統）の新たな市中感染事例を確認」 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 6 報～
2021 年 4 月 22 日	免疫逃避型（E484K 変異）系統株と英国型（N501Y 変異）系統株の市中感染共存事例を確認 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 5 報～
2021 年 4 月 8 日	免疫逃避型（E484K 変異）変異株を含む多様な市中流行株の感染事例を確認 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 4 報～
2021 年 4 月 1 日	コロナ禍で収入が減少した人は歯の痛みが 1.4 倍多い
2021 年 3 月 30 日	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）人工呼吸器および ECMO の使用に関する一般市民の意識調査 ―医療への信頼性維持と迅速な治療方針決定のため重症時「どうなる?」への理解不足解消を―
2021 年 3 月 25 日	COVID-19 診療に従事する医療関係者の直面しているストレスに関連する危険因子を同定
2021 年 3 月 15 日	市中感染事例における海外系統株の増加を確認 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 3 報～
2021 年 2 月 18 日	免疫逃避型変異（E484K 変異）を有する海外（カナダ）系統株の新たな市中感染事例を確認 ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 2 報～
2021 年 1 月 29 日	英国 SARS-CoV-2 系統株の新たな市中感染事例を確認 ―市中流行株の変遷に影響をおよぼす可能性― ～新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト第 1 報～
2021 年 1 月 8 日	東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学及び一橋大学の 4 者による「四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアムに関する覚書」を締結
2020 年 11 月 23 日	「COVID-19 医療従事者のストレスを検出する新しい評価尺度」を精神科が開発
2020 年 6 月 1 日	次世代の呼吸補助装置の研究及び新型コロナウイルス患者の急増への対応を視野に入れた新型人工呼吸器の評価研究等を行うオープンラボラトリーの開設
2020 年 5 月 28 日	より効果的なリモートリハビリテーションを実現「ウェアラブルシステム」の共同研究について
2020 年 5 月 21 日	共同研究グループ「コロナ制圧タスクフォース」発足 ―新型コロナウイルス感染症の遺伝学的知見に基づいた COVID-19 粘膜免疫ワクチンの研究　主な COVID-19 関連の研究成果（共同研究も含む）

東京医科歯科大学

新型コロナウイルス感染症との戦い

未知のウイルス、COVID-19との闘いは病院、大学、日本、世界にどんな変化をもたらしたのでしょうか…。東京医科歯科大学では、「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」という理念でパンデミックを乗り越えました。忘れてはならないコロナとの闘いの記録を病院での動向を中心にまとめました。

第1波 (2020年4月1日~6月30日)

2019年12月初旬、中国湖北省の武漢で新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による第1例目の重症肺炎患者が報告され、2020年1月中旬にはタイ、韓国、日本にも広がり、さらに1月下旬になるとヨーロッパに拡大し、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン等でも感染者・死者が急増し、世界保健機関(WHO)が1月30日に「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言し、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックが世界中に広がりました。日本では2020年1月16日に、中国・武漢から帰国した男性が、国内で初めての感染者として報告されました。

東京医科歯科大学では2020年1月31日に政府チャーター機帰国邦人隔離施設へ派遣されるDMAT(DisasterMedicalAssistanceTeam:災害派遣医療チーム)のメンバーとして職員を派遣し、2月7日には大量の感染患者が発生した「ダイヤモンド・プリンセス号」の患者搬送や船内診療支援を行うDMATメンバーとして職員が参加しました。さらに2月17日には「新型コロナウイルス感染症対策会議」が発足し、当時の田中雄二郎医療担当理事、内田信一医学部附属病院長が中心となり、イギリス、アメリカなどで活躍する本学卒業生からの現地でのパンデミックなどの情報をいち早く聞き取り、医療崩壊を未然に防ぐための綿密な計画を立てはじめました。3月30日に「事務局新型コロナウイルス対策室」が設置され、「最悪の事態」に備えたフェーズ1~フェーズ5のシナリオが完成。受け入れ専用病棟を9階(ER-HCU、A9病棟、B9病棟)に設定し、通常の入院診療を縮小して対応に当たることになりました。

2020年4月1日、就任したばかりの田中雄二郎学長は「ピンチをチャンスに」というメッセージを発信し、大学の入学式などの式典や授業は中止となり、オンライン授業に切り替える準備が迅速に進められました。教職員および学生に対して「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」という理念でスタートしました。また未知のウイルスとの闘いが始まる中、「責めるより応援しよう」というメッセージを田中雄二郎学長が発信したことが、現場の混乱を未然に防ぐ一因となりました。4月2日には1例目の陽性患者を東京医科歯科大学医学部附属病院(当時)が受け入れ、同日、病院前に特設の「検体採取テント」が稼働しました。4月4日には1例目となる重症患者がER-HCU(重症用8床、4月27日には10床)に入院しました。

4月6日には「仲間を守る」という観点から「職員のメンタルヘルス対策」を精神科の医師、看護師が中心となってスタート。同日、コロナ対応病棟で働く医療従事者を対象にPCR検査を開始しました。PCR検査の実施には病院検査部だけでなく、ウイルス制御学分野、再生医療研究センター、免疫治療学分野、保健衛生学科などに所属する、たくさんの基礎研究者が協力したことで検査体制が整いました。またマスクや防護服も在庫不足が心配される中、材料部の管理体制や、本学卒業生、留学生、企業からのご厚意もあり、不足することなく安心してコロナ医療に対応できました。またコロナ対応の医療現場で起きるさまざまな課題・問題を吸い上げて解決するために、「アセスメントチーム」が結成されました。さらに病床を正確に把握して、必要なコロナ病床の準備・確保に対して柔軟に対応する「ベッドコントロールセンター」も、看護部が中心となってスタートしました。

4月9日には『TMDUコロナ対策通信』が創刊し、コロナ対応の様子を全職員と学生が共有できるようにしました。こうして病院と大学が一体となってパ

東京医科歯科大学　新型コロナウイルス感染症との戦い

ンデミックに立ち向かう気風が高まる中、4月7日には東京を含む7都市に初めての「緊急事態宣言」が発令され、4月16日には対象区域が全国に拡大するほど感染者が急増しました(~5月25日まで)。これを受けて、4月13日にはコロナ感染が確定した入院患者が25人に達し、「医病新型コロナウイルス対策室」が設置され、救命救急センターの受け入れを一時中止し、歯科予約診療も休止となりました。「医病新型コロナウイルス対策室」は、「最新のコロナ情報はすべてここでわかる!」というコンセプトで本学のコロナ対応に関する司令塔として活躍し、情報やシステムがアップデートされるたびに最新情報を発信しました。4月14日から入院予定の患者を対象に「入院前スクリーニングPCR検査」がスタート。検査には歯科医師や歯学部附属病院スタッフも協力しました。

入院を希望する陽性患者が増える中、コロナ対応病床を増やすために4月15日から、一般ICUの一部がコロナ対応病棟(重症用8床)として稼働し始めました。4月19日には、一般外来や手術が中止となり時間の調整が可能な整形外科の医師たちが中心となって「バックヤードチーム」を結成し、コロナ患者が入院する病棟の清掃や患者の入退院時の搬送や付き添いなどをしてくれたことが、職員の結束力を高め、大きな力を発揮する原動力になりました。4月24日には緊急性のない手術は全面的に中止となり、4月27日には入院中の陽性患者が36人に達しました。ゴールデンウィーク明けに少しずつ患者が減少し、5月8日には治療薬「レムデシビル」が承認され、都内の新規感染者数も10人を切るまで減少し、5月25日には緊急事態宣言が全国で解除されました。しかし5月27日時点の世界の感染者数(死者数)は553万8,685人(34万8,832人)、実に205カ国・地域に広がっていました。

このようにパンデミックの終息が見えないなか、本学では医学部附属病院が5月13日に、「COVID-19肺炎疑い紹介外来」を、歯学部附属病院が「歯病クリーンルーム外来」を院内でスタートし、歯学部附属病院の歯科医師、看護師、検査技師、放射線技師などが協力して運営を開始しました。このような取り組みは、2021年10月に予定していた医学部附属病院と歯学部附属病院の一体化に向けて、大きな貢献となり、医療現場での結束が高まりました。社会からのニーズが増加するコロナ医療に対応するため、一般診療を休止・縮小しながら、2020年4月1日から6月30日までのいわゆる「第1波」には、都内の大学病院では最も多い1日平均15.8人のコロナ患者を受け入れました。

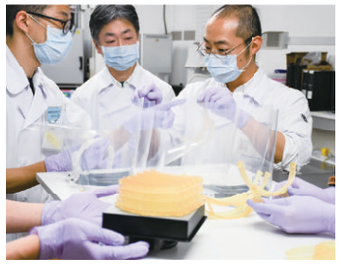
大学の行事については、2019年度の卒業式、2020年度の入学式などはすべて中止となり、学長のメッセージが動画配信されるのみとなりました。一方で、パンデミックの長期化を想定して、イベントや授業のオンライン配信システムの構築が急速に進められました。大学の授業は、4月からオンラインにて開始されました。入学式の中止に伴い、定例の新入生健診は中止し、質問票により新入生の健康状態把握に努めました。また、4月中旬の病院職員のB型肝炎の抗原抗体検査は3密回避と換気に留意して実施されました。健康相談外来は一時中止し、リモートでの面談相談を開始し、5月定例の学生定期健診は延期としました。体調不良者について、出席停止基準を明確に定め、各学科教務係、事務局コロナ対策室と連携して保健管理センターで出席停止判断を行い、受診や療養についてもサポートしました。さらに、保健所からの依頼で接触者調査と接触者への対応を行い、学内での感染拡大予防に努めました。新型コロナウイルスパンデミックにおいては、メンタルヘルスも重要な課題です。保健管理センターでは精神科や看護部とも連携し、最初の緊急事態宣言前の2020年4月2日に緊急のメンタルヘルス調査を施行しました。その後の感染拡大に伴い、全学のメンタルヘルスケアチームとして活動しました。また、生体材料工学研究所や難治疾患研究所で毎年6月頃に行われている「オープンキャンパス」は、オンラインで開催されました。

第 2 波 (2020 年 7 月 1 日 ~10 月 31 日)

6月に入り少しずつ感染者が減り、手術の枠も拡大し、一般診療枠も少しずつ拡大して、COVID-19のパンデミックは、この第1波で終了すると思われていましたが、無情にも「第2波」が2020年7月から10月まで続きました。受け入れる入院患者数も、重症患者を5床から15床、中等症患者を10床から25床と、東京都の要請に応じ増床しました。重症患者の対応が増えたために看護師を大幅に増員する必要があり人材確保を急ピッチで進めました。7月7日には3号館の立体駐車場スペースにプレハブ専用診療スペース「3号館コロナ肺炎外来」がオープン。9月7日にはコロナ診療には欠かせない最新鋭のCTも設置され、9月17日には「コロナ外来診療センター」が開始されました。7月27日には「軽快退院」100症例目を達成しました。第2波では重症患者の受け入れ要請が増えて、8月19日から10月31日の間に268人のコロナ陽性患者を治療しました。9月23日にはICUに「仕切りの壁」を設置し、一般ICUとコロナ重症ICUに分けました。9月28日には予定手術枠を拡大できるようになり、感染が少し落ち着いてきたかに見られましたが、この時期の1日平均入院患者数は13.6人で、まだまだ病院内はコロナ対応で忙しい状態でした。

大学全体として喜ばしいニュースを紹介すると、「世代を超えた人類のトータル・ヘルスケア」のモデルを社会に提示することを目指すという構想が評価され、10月15日に文部科学省から「指定国立大学法人」の指定を受けました。

学生たちの授業は、分野開講科目を除くほぼすべての講義がオンライン実施となりました。1年生は入学後もオンラインでの講義が続いていましたが、8月6日~7日に教養部で医学科・歯学科の生物・化学・物理の実習が対面で行われることになり、これに合わせて、教養部福利厚生棟2階で、MR・ムンプス・水痘ワクチン接種を同時接種で実施し、10月には2回目の接種を行いました。なお、1年生は出身地に残っている学生も4分の1ほどおり、地元での抗体検査やワクチンを受ける場合は、結果を保健管理センターに届ける形としました。2年生以降対象のB型肝炎ワクチンは3ヶ月ほど延期して、8月から3回のワクチン接種を実施しました。学生定期健康診断は、9月14日から10月2日にかけて、各学科別に学生の受診予定の日程・時間を調整し実施しました。また、毎年学生が楽しみに企画している「お茶の水祭」は10月18日にオンラインで開催されました。



第 3 波（2020 年 11 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日）

2020年10月中は少し感染が落ち着いた状況になり、10月2日には議員・メディアが病院を視察しました。11月2日には「軽快退院」患者200症例目を達成しましたが、同時に早くも「第3波(2020年11月1日~2021年3月31日)」が到来していました。11月18日には1日の国内感染者数が過去最多の2,201人、都内でも過去最多の493人となりました。これを受けて11月28日には小池百合子都知事が病院を視察しました。特に重症者が多くなった影響で12月には大阪府が「医療非常事態宣言」を発出。12月17日には東京都も「年末年始コロナ特別警報」を発出し、政府や都道府県が帰省や忘年会の自粛を呼びかけました。しかし12月26日には英国からの帰国者5人からコロナ変異ウイルスが国内で初確認され、12月28日からは全世界からの外国人の新規入国が停止となりました。この頃流行し始めていた

のは、「アルファ株(N501Y)」や「R.1系統株(E484K)」などでした。2021年1月8日には1都3県に緊急事態宣言が発令されました(~3月21日解除)。また渡航歴のない感染者から変異ウイルスが発見され、クラスターが発生するなど、医療現場はひっ迫していました。一方で2021年2月17日から医療従事者を対象にコロナワクチンの接種がスタートしました。

第3波に東京都からは12月2日に重症8床、中等症25床の病床確保を要請されていましたが、感染が拡大したため、2021年1月12日には重症8床、中等症30床に増床するように要請が変更されました。このため重症患者の対応に必要ECMO(体外式膜型人工肺)や人工呼吸器などの保守管理・操作を行うME(MedicalEngineer:臨床工学技士)を来春から増員することを決定し、重症患者の受け入れ体制強化を進めました。12月15日からは、医療従事者を対象に本人が希望する場合はPCR検査を受けられる体制を整え、2021年1月15日には医学部附属病院の全職員にまで適用を拡大しました。2月5日には「軽快退院」300症例目を達成しました。2021年3月15日から本学医療従事者を対象にワクチン(先行)接種がスタートし、さらに3月29日にはN501Y、E484K変異ウイルスのスクリーニングPCR検査がコロナ陽性患者を対象に開始されました。

第3波の大学の講義は、原則として遠隔講義とし、実習科目は分野開講科目を除き休講となりました。

第4波（2021年4月1日~6月30日）

感染が一段落していた4月5日には、中止となった2020年度の入学生も招いて、2020年度・2021年度の新入生575名を招き、学部入学式が挙行されました。残念ながら大学院の入学式は2021年度も中止となりました。4月22日には、キャリアアップ教員の名称付与授与式が対面で挙行され、12人の女性職員にキャリアアップ名称が授与されました。しかし医療現場では、最初のコロナ患者を受け入れてから1年が過ぎても、陽性患者は一時的に減少するものの、新たな変異株の出現で増加する一方でした。3月には従来型の欧州株からE484Kを持つR1株に置き換わり、さらに4月には感染力が強いアルファ株に急速に置き換わって、5月中には80～90%に達しました。医療崩壊を回避するために、2021年4月25日には3回目の緊急事態宣言が発令され(～6月20日解除)、同日から東京都の要請を受けて重症病床を8床から10床に増床し、さらに5月2日には重症12床、中等症25床、疑い15床の全52床体制でコロナ関連患者を受け入れました。特に重症病床の増床は、医療スタッフのマンパワーを要するため、看護師の増員だけでは足らずに、「支援医師」3～4人を日勤帯に配置(脳神経外科、耳鼻科、泌尿器科、呼吸器外科、総合外科、消化器外科から派遣)し、重症患者の受け入れ、院内搬送、転院搬送、腹臥位療法補助などのサポートを行いました。この間にワクチン接種を急ぐようにという世論が高まり、本学では歯科医師にもワクチン接種の担い手として認めるように厚生労働省に働きかけを行いました。また5月6日からはインド型変異株(デルタ株)のスクリーニングPCR検査をスタートしました。5月中旬から陽性患者が減少傾向に入り、5月15日にはコロナ陽性患者の「軽快退院」400症例目を達成しました。6月1日からは無症状の希望者が誰でも検査できる「東京都モニタリングPCR検査」を開始しました。医学部附属病院でも、6月14日に、重症感染患者の減少に伴って重症病床を12床から8床に減床し、一般のICU病床と手術枠を増やしました。6月16日からは歯科医師への新型コロナウイルスワクチン接種研修を実施し、9日間で延べ426人が受講しました。

第4波の期間、大学の講義は原則として遠隔講義とし、実習科目は分野開講科目を除き休講となりました。

第5波（2021年7月1日～12月31日）

2021年6月に減少傾向となり、7月10日時点で高齢者のワクチン接種率は1回目が75.75%、2回目が45.66%となりましたが、7月に入ると新たな変異株(デルタ株)の感染が拡大し、都内でもワクチン未接種の40～50代の重症患者が増え始めました。このため7月12日には第4回目の緊急事態宣言が発令されました(～9月30日解除)。本学では7～8月に職員・学生を対象にワクチン接種を実施し、合計6,500人超が接種しました。8月7日には、「軽快退院」500症例目を達成しました。しかし感染は収まらず、8月10日頃から救急患者を受け入れる医療機関がすぐに決まらない「搬送困難」の状態が全国に広がりました。医学部附属病院は東京都からの要請を受けて、8月23日には重症を12床に増床し、8月30日には中等症を49床へ増床しました。9月7日からは、四大学連合共同の新型コロナワクチン・大学拠点接種を実施し、本学の医師・歯科医師・薬剤師・看護師などがワクチン接種の担い手となって東京工業大学、東京外国語大学、一橋大学などのキャンパスに赴き、約1,000人への接種を行いました。一方で9月24日には「軽快退院」600症例目を達成しました。

10月1日には医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し、「東京医科歯科大学病院」として新た

なスタートを切りました。10月14日には「感染症内科」を新設しました。10月に入ると感染者が減少し、10月4日には重症を8床、中等症を24床へ縮小し、11月15日には重症病床が3床まで縮小できるようになり、予定手術枠も拡大できるようになりました。8月16日～11月18日にかけて、文京区、新宿区、港区の3区合同のワクチン接種が東京ドームで行われ、本学も文京区からの要請を受け、総合監修及び医師の派遣という形で事業運営に協力しました。11月25日にはコロナ陽性の入院患者が0人になり、感染が収束したように見えました。しかし、海外では新たな変異型である「オミクロン株」が11月30日に日本人へ初めて感染したことが確認されると、国内でも市中感染が広がり、当院でも12月30日には再び中等症患者が入院し、入院患者が少しずつ増加していきました。

8月に実施されたオープンキャンパス、10月16日からの「第70回お茶の水祭」は共にオンラインとなりました。

第6波（2022年1月1日~6月30日）

2021年末から始まった「オミクロン株」の全国的な感染拡大に伴い、当院でも2022年1月1日から重症病床を3床から4床に増床。1月7日には重症患者が約40日ぶりに入院しました。1月21日には2回目の「まん延防止等重点措置」が東京都に発令されました（～3月21日解除）。1月27日には国内の新規感染者数が初の7万人超となりました。1月24日からはさらに重症6床、中等症を24床から39床へ増床しました。2月10日にはコロナ陽性の入院患者数が過去最高の48人（重症5人／中等症43人）を記録しました。これを受けて2月14日からは、重症病床を6床から12床に拡大しました（重症12床／中等症49床体制）。オミクロン株の急拡大は2月中旬以降に少し落ち着き始め、2月17日には「軽快退院」700症例目を達成しましたが、高齢者施設でのクラスターが後を絶ちませんでした。3月に入り陽性患者の入院が減少し、3月18日には「軽快退院」800症例目を達成し、3月22日には、重症病床を6床、中等症病床を24床へ縮小し、3月28日から予定手術枠も拡大しました。5月25日には「軽快退院」900症例目を達成。6月16日には重症を2床、中等症を10床まで縮小しました。

2022年3月には、2021年度の学部卒業式・大学院学位授与式が挙行され、4月には、大学学士課程入学式は挙行され、大学院の入学式は中止となりました。また、入学者ガイダンスは遠隔で実施されました。第4波の期間、大学の講義は原則として遠隔講義とし、実習科目は分野開講科目を除き休講となりました。

第7波（2022年7月1日～9月25日）

2022年3月以降減少していた感染者の数も、「オミクロン株」の1種である「BA.2」の流行が確認されるようになり、増加傾向に転じて、ジワジワと感染者を増加させていきました。また同じ「オミクロン株」の1種である「BA.5」も流行し始めました。7月7日には小池百合子都知事から「第7波に入ったとも考えられる」というコメントが発せられたように、全国の感染者数が4万8千人に近づき、前週の2倍に増加しました。7月12日には東京都から、都内の新型コロナ病床を現在のおよそ5,000床から、さらに2,000床増やすよう医療機関に向けて要請があり、当院でも7月20日に中等症を24床へ増床、8月8日には重症を6床へ増床しました。8月21日には「軽快退院」1,000症例目を達成しました。8月23日には全国で報告された新型コロナウイルスによる死者数が1日で343人と過去最多を記録しました。またWHOの調査によると8月15日から8月21日までの1週間の新規感染者数は、世界全体で530万6,244人と、前の週より9%減少したものの、日本は147万6,374人と、前週に比べて6%増え、世界全体の新規感染者数のおよそ4分の1を占め、5週連続で世界最多になりました。

9月26日からは新規感染者数の全数把握を簡略化し、詳しい報告の対象を重症化リスクが高い人（65歳以上、入院が必要な人、妊娠中の女性など）に限定する運用が全国一律でスタートしました。

10月16日には4年ぶりに「第10回ホームカミングデイ」が開催されました。

第7波以降も当院ではコロナ陽性患者を受け入れており、10月24日には「軽快退院」1,100症例目、12月22日には1,200症例目を達成しております。

2023年3月10日には、入院前スクリーニングPCR検査が終了し、3月14日にはコロナ肺炎外来センターが終了、「コロナ対策通信」は4月28日の741号で「休刊」となりました。5月8日には新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行されました。11月24日には病院および保健管理センター以外でのユニバーサルマスクを終了、11月27日からは新型コロナウイルス対策がすべて通常の院内感染対策の枠内で行われることとなり、新型コロナウイルス感染症の流行を受けた特別対応はほぼ終了しました。

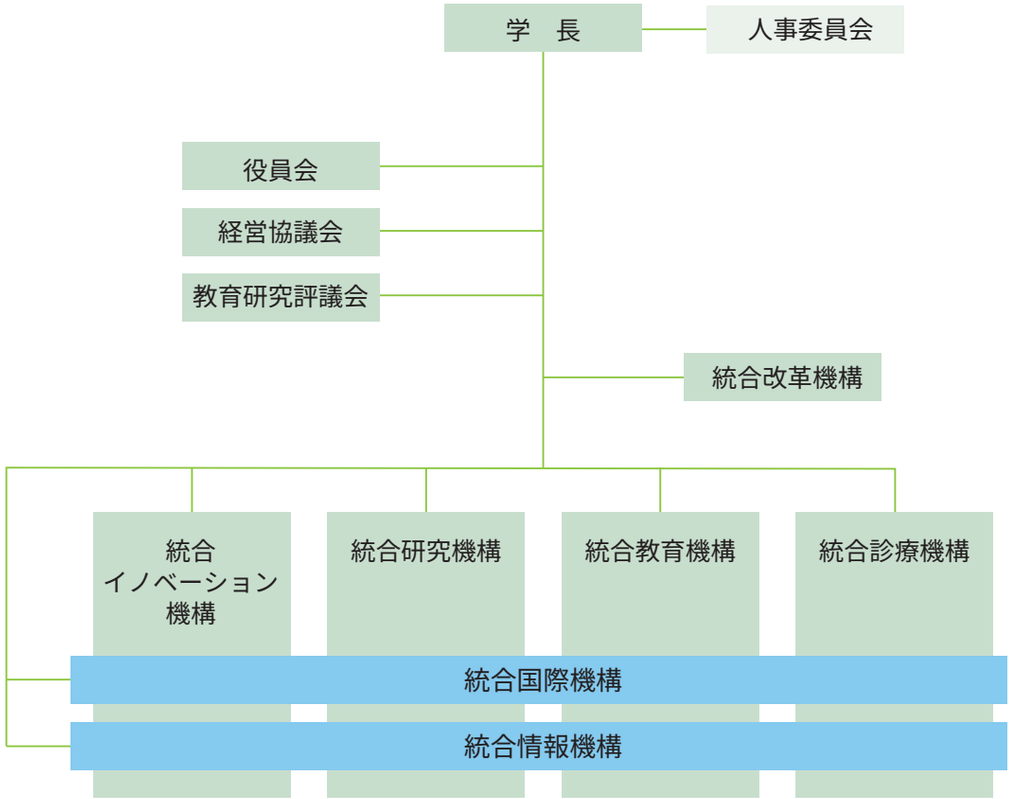
2020年3月からスタートした「新型コロナウイルス対策会議」は、2023年12月18日より適宜開催になりましたが、それ以降も陽性患者の入退院や検査結果などは毎週1回報告書が作成され、最終報告書は2024年4月3日に配信され、実に作成された報告書は750号を記録しました。

本学のコロナ対応に関しては、2020年4月当時から、たくさんの新聞、テレビ、ネットニュース、雑誌、ラジオなどでご紹介いただくことで、本学の取り組みを多くの皆様にご覧いただけるチャンスとなり、情報発信の重要性を学びました。報道関係者の皆様にも深く感謝いたします。

最後に本学のコロナ対応に対する応援をいろいろな形で、社会の皆様からいただいたことで、大きな勇気と励みをいただくことができました。マスク、防護服、折り鶴、食品など、応援グッズを送ってくださった方の合計は195件、ご寄附をいただいた方は1,468人に上ります。最後に改めて大学一同を代表して厚く御礼を申し上げます。

管理運営組織図

教育研究組織等



医学の専門家集団から多様な科学を統合する医学部への飛躍

東京医科歯科大学
医学部長
東田 修二先生
Shuji TOhda

本学は1928（昭和3）年に東京高等歯科医学校として設立し、1944（昭和19）年に医学科が設置され、1946（昭和21）年に東京医科歯科大学となりました。1989（平成元）年には医学部に保健衛生学科が設置され、国立大学として初めての４年制の看護学と検査技術学の高度医療技術職を育成する大学となりました。1999（平成11）年からは大学院重点化が進みました。本学医学部は世界をリードする医師、看護師、検査技師、研究者、教育者、医療行政職を数多く育成しました。

本学医学部の教育の特色は、高い研究力のある国際性豊かな医療人を育成するカリキュラムにあります。医学科では４年次のプロジェクトセメスター（研究室配属）で、約半年間研究に専念します。この期間にImperial CollegeLondonなど海外に短期留学する学生もいます。2004（平成16）年には、選抜された6年生がハーバード大学教育病院など海外で臨床実習するコースを設けました。一方、教員の側も2002（平成14）年から年１回、十数名のグループで８日間前後、ハーバード大学で医学教育を学び、実際の授業に参加して、ハーバード大学流の教育を本学に導入するコースが開始されました。保健衛生学科ではセイナヨキ応用科学大学（フィンランド）やチュラロンコーン大学（タイ）などに学生と教員の派遣を行っています。

また、医学部は多くの研究業績を上げてきました。形態学や細胞レベルの研究に始まり、分子生物学やゲノム解析の時代を経て、ゲノム編集やデータサイエンスの導入と研究手法は変遷していますが、どの時代においても世界をリードする成果を上げ、現在、分野別QS世界大学ランキング2024の医学分野で128位に上昇しています。なお、具体的な業績は後のページで紹介されます。

診療では、2020年からの新型コロナウイルス感染症の蔓延に対して、東京医科歯科大学病院は重症患者を都内で最も多く受け入れ、高い救命率を上げて、診断や治療に関する多くの新知見を世界に発信しました。この成果は医学部だけでなく、歯学部や附置研究所のご協力によるものです。また、当院の救命救急センターは初期診療とともに、重症患者の緊急手術や集中治療まで一貫して診療する数少ないERです。救急車搬送数は都内屈指であり、全国救命救急センター評価の総合評価で全国第１位になった年もあります。

1978年に入学した私自身の思い出としましては、学部生時代の臨床講義で、コの字型の階段教室の中央に入院患者さんに来ていただき、担当学生が医療面接を行い、身体所見をとっていたことや、若手医師時代は、朝から夕方遅くまで病棟で診療し、その後は深夜まで医局の研究室で、皆で実験をしていたことが懐かしく思われます。これらが今の自分の土台となっており、本学に感謝しています。

医学部創立80周年となる2024年は、本学が東京工業大学との統合により東京科学大学として新たに飛躍する年になります。医学の専門家集団としての医学部から、異分野融合や医工連携を進めて、工学、生命科学、コンピューターサイエンスを取り入れた医学部に発展すべく、教職員と学生が一体となって努力したいと思います。

医学部
Faculty of Medicine

入学定員及び現員（2024年５月１日現在）
Number of Students (as of May 1, 2024)

(1) 学部
Undergraduate students

		入学定員 Capacity of Admission	収容定員 Total Capacity	現員数 Number of Students 第1 1st year		第2 2nd year		第3 3rd year		第4 4th year		第5 5th year		第6 6th year	
医学科 School of Medicine		101 {5}	628	108	39	107 (5)	37 (3)	103 (6)	37 (5)	105 (5)	40 (3)	111 (4)	43 (2)	100 (6)	35 (3)
保健衛生学科 School of Health Care Sciences		90	360	91	86	100	94	92	84	95	93				
	看護学専攻 Nursing Science	55	220	55	55	57	55	54	50	55	55				
	検査技術学専攻 Medical Technology	35	140	35	30	42	38	37	33	39	37				

＊注１ 赤色は、女子学生を内数で示す。
＊注２ 例年留年者等も各学年に含める。
＊注３ 例年休学者は含んでおらず。
＊注４｛　｝内は、２年次編入学定員を外数で示す。
（　）内は、２年次編入学生を内数で示す。

*Note 1 : The numbers in red indicate female students.
*Note 2 : The number of students repeating a year is included in the number of students for each year in school.
*Note 3 : The number of students on a leave of absence is not included.
*Note 4 : The numbers in parentheses indicate the students transferring into the second or third-year program from other institutions.

(2) 大学院
Graduate students

医歯学総合研究科
Graduate School of Medical and Dental Sciences

		入学定員 Capacity of Admission	収容定員 Total Capacity	現員数 Number of Students 第1 1st year	第2 2nd year	第3 3rd year	第4 4th year	第5 5th year
修士課程 Master's Program	医歯理工保健学専攻（一般コース） Health Sciences and Biomedical Engineering	107	214	117	120			
	医歯理工保健学専攻（MMAコース） Health Sciences and Biomedical Engineering, Master of Medical Administration Course	15	25	17	13			
	医歯理工保健学専攻（MPHコース） Health Sciences and Biomedical Engineering, Master of Public Health in Global Health (MPH) Course	9	18	9	11			
博士課程 Doctoral Program	医歯学系専攻 Medical and Dental Sciences	–	–				14	
	医歯学専攻 Medical and Dental Sciences	181	724	200	220	206	321	
	東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻 University of Chile and TMDU Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences with Mention of a Medical Specialty	3	15			1		1
	東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学 国際連携歯学系専攻 Tokyo Medical and Dental University and Chulalongkorn University International Joint Degree Doctor of Philosophy Program in Orthodontics	3	15	2		2	3	3
	東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携 医学系専攻 Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences between Tokyo Medical and Dental University and Mahidol University	3	12	3	2	3	3	
	生命理工医療科学専攻 Biomedical Sciences and Engineering	25	75	28	15	21		

保健衛生学研究科
Graduate School of Health Care Sciences

		入学定員 Capacity of Admission	収容定員 Total Capacity	現員数 Number of Students 第1 1st year	第2 2nd year	第3 3rd year	第4 4th year	第5 5th year
博士課程 Doctoral Program	看護先進科学専攻 Nursing Innovation Science	13	65	13	10	15	15	39
	共同災害看護学専攻 Cooperative Doctoral Course in Disaster Nursing	–	4					2
博士（後期）課程 Doctoral Program	生体検査科学専攻 Biomedical Laboratory Sciences	–	–					

世界の口腔科学拠点として発展し続けます

東京医科歯科大学
歯学部長
依田 哲也先生
Tetsuya Yoda

わが国最初の官立歯科教育機関設立に向けて、「歯科高等教育機関設置に関する法案」が帝国議会を通過したのは、1922（大正11）年初春のことでありました。翌1923年度の国家予算に組み込まれる予定でしたが、同年に発生した関東大震災のために計画が大きく遅れ、本学の前身である東京高等歯科医学校が創立したのは、6年後の1928年（昭和3）年になりました。もし、予定通りに創立されていればちょうど100周年での新大学移行だったかもしれません。

創立以来、本学はわが国を代表する歯学教育研究機関として歩み続けております。現在では6年生の歯学科と4年生の口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻、口腔保健工学専攻）を有し、医療人としての全人的視点、科学的な探求心と問題解決能力、さらには国際的な視野も備え、指導的役割を果たすことのできる歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の養成に取り組んでおります。　特に、日本最大規模の大学病院（歯系診療部門）を中心に行われる臨床教育では、国内トップレベルの実践的な診療参加型実習を行っており、知識・技術の習得だけでなく、歯科医療のプロフェッショナルに必要な人間性やコミュニケーション能力を育む絶好の機会を提供しております。

また、本学は東京・関東圏で唯一の国立大学の歯学部ということもあり、本来の実力以上に世界から注目される存在でもあります。海外の学術交流提携大学歯学部も50校以上を数え、毎年多くの学生を海外研修に派遣しているとともに、毎週のように世界各国からの学生研修や歯学部長等の訪問を受け入れています。大学院では、約半数が海外からの留学生となっており、修了生が母国の大学に戻って、教授や歯学部長として活躍されている方も増えてきました。

2016年からは最先端口腔科学研究推進プロジェクトを発足させ、口腔科学のグローバル拠点となるべく、バーチャルではありますが、大学内の分野や部局をまたいだ研究推進体制を強化してきました。2022年には本学が指定国立大学法人となり、その重点研究領域の一つとして「口腔科学」が位置づけられたことから、ますますその重要性が認識され、2024年には2部門の専任教員、2000㎡規模のスペースを確保した「口腔科学センター」を発足しました。口腔と全身のクロストークの解明や、咀嚼・嚥下等の口腔機能評価デバイスの開発、貴金属から完全に脱却した歯科修復マテリアルの開発などを推進し、学内外の口腔科学研究をサポートするとともに、大型研究費の獲得や国際連携研究の拠点となることを目指します。東京工業大学や産業界からの協力もお願いして、新大学の目玉の一つになることが期待されます。

現在、分野別QS世界大学ランキング2024の歯学分野で、日本国内第1位、世界第4位と毎年大変高い評価をいただいておりますが、この現状に満足せず、さらに飛躍しなければなりません。新大学となることが、口腔科学研究や教育の世界的な拠点として、さらなる発展を遂げる追い風になると確信しております。そして、それらの教育や研究成果が、臨床、社会に還元され、全世界の人々の健康に寄与することを心より願っております。

学生数
Student Enrollment

(1)学生定員および現員
Number of Students in Dental School

(2023年5月1日現在　May 1, 2023)

歯学部歯学科 Faculty of Dentistry, School of Dentistry

入学定員 Capacity of Admission		現員 Number of Students							
		第1学年 1st year	第2学年 2nd year	第3学年 3rd year	第4学年 4th year	第5学年 5th year	第6学年 6th year	収容定員 Total Capacity	合計 Total
1学年 53名 53/year	男 Male	30	29	17	26	25	23	318	150
	女 Female	30	30	29	29	26	26		170
	合計 Total	60	59	46	55	51	49		320

歯学部口腔保健学科 Faculty of Dentistry, School of Oral Health Care Sciences

入学定員 Capacity of Admission		現員(口腔保健衛生学専攻) Number of Students (Course for Oral Health Care Sciences)						入学定員 Capacity of Admission		現員(口腔保健工学専攻) Number of Students (Course for Oral Health Engineering)					
		第1学年 1st year	第2学年 2nd year	第3学年 3rd year	第4学年 4th year	収容定員 Total Capacity	合計 Total			第1学年 1st year	第2学年 2nd year	第3学年 3rd year	第4学年 4th year	収容定員 Total Capacity	合計 Total
1学年 22名 22/year 〈なし〉	男 Male	3	0	0	0	88	3	1学年 10名 10/year 〈5名〉	男 Male	1	1	3	0	55	5
	女 Female	21	23	25	18		87		女 Female	9	11	12	9		41
	合計 Total	24	23	25	18		90		合計 Total	10	12	15	9		46

(注)〈　〉内は、2年次および3年次編入学定員の外数を示す。
Note〈　〉: The numbers in angle brackets indicate the capacity of students transferring into the second year and third year program from other institutions. They are not included in the numbers above them.

(2)大学院学生定員および現員(歯学系)
Number of Students in Graduate School (Dentistry)

(2023年5月1日現在　May 1, 2023)

研究科 Research Division	専　攻 Courses	課程 Program	入学定員 Capacity of Admission	収容定員 Total Capacity	第1 1st year	うち歯学系 Dental Students	第2 2nd year	うち歯学系 Dental Students	第3 3rd year	うち歯学系 Dental Students	第4 4th year	うち歯学系 Dental Students	第5 5th year	うち歯学系 Dental Students	合計 Total	うち歯学系 Dental Students
医歯学総合研究科 Graduate School of Medical and Dental Sciences	医歯理工保健学 Health Sciences and Biomedical Engineering	修士 Master	107	214	121	14	120	17	–	–	–	–	–	–	241	31
	医歯理工保健学（MMAコース） Health Sciences and Biomedical Engineering (MMA)		15	25	16	–	13	–	–	–	–	–	–	–	29	0
	医歯理工保健学（グローバルヘルスリーダー養成コース） Health Sciences and Biomedical Engineering (Master of Public Health in Global Health (MPH) Course)		9	18	11	0	12	0							23	0
	医歯学系 Medical and Dental Sciences	博士 Doctoral	–	–	–	–	–	–	–	–	35	7	–	–	35	7
	医歯学 Medical and Dental Sciences		181	724	219	92	213	73	211	78	323	101	–	–	966	344
	生命理工学系 Life Science and Technology		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0	0
	生命理工医療科学系 Biomedical Science and Engineering		25	75	17	4	16	–	16	–	–	–	–	–	49	4
	東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系 Tokyo Medical and Dental University and Chulalongkorn University International Joint Degree Doctor of Philosophy Program in Orthodontics		3	15	0	0	2	2	3	3	3	3	2	2	10	10
	東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系 University of Chile and TMDU Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences with mention of a medical specialty		3	15	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	4	0
	東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系 Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences between Tokyo Medical and Dental University and Mahidol University		3	12	2	0	3	0	3	0	3	0			11	0
	合計 Total		346	1,098	386	110	380	92	233	81	365	111	4	2	1,368	396

(3)大学院研究生
Number of Graduate Research Student

(2023年5月1日現在　May 1, 2023)

研究科名 Research Division	男 Male	女 Female	合　計 Total
医歯学総合研究科 Graduate School of Medical and Dental Sciences	71	62	133

激動の時代を乗り越えていくための教養教育とは

東京医科歯科大学
教養部長
檜枝 光憲先生
Mitsunori Hieda

教養部は湯島キャンパスより総武線およびバスで50分ほどの市川市郊外にあり、緑豊かな江戸川沿いの文教地区・国府台の一角にあります。国府台という地名の由来は、下総国府が置かれたところから付けられたものです。高度な人材を輩出する使命を果たすべき本学の立地が、湯島キャンパスは昌平坂学問所の跡地、国府台キャンパスは下総国府ゆかりの地という学問・文化に根付いた場所にあることは、単なる偶然ではないように思えます。

本学教養部は1965（昭和40）年に国府台に設置されました。しかしそのルーツは古く、本学が1946（昭和21）年に旧制大学へ昇格した時期に、茨城県稲敷郡安中村に設置された大学予科にあります。その後、大学予科は1950（昭和25）年に他大学である千葉大学に移管され、大学予科の廃止、進学課程の設置を経て、1958（昭和33）年に国府台の地に本学の国府台分校が開設され、基礎教育から医学教育までのすべてを本学自身で行えるようになりました。そして1965（昭和40）年に部局に昇格し、現在の教養部が誕生しました。

本学へ入学して最初の１年間は、国府台キャンパスにて教養を中心に授業を受講します。自分の志した医学・歯学の専門領域を究めることは大切なことですが、狭い範囲の価値観だけに縛られては、実社会の中の「答えのない難問」を解決できません。近年、この「答えのない難問」は、AIなどのテクノロジーの急激な発達、グローバル化、未知の感染症のパンデミック等により加速度的に増加しております。よって、それらの難問解決のためには、幅広い知識を持ち、さまざまな角度から物事を考えられる柔軟で自由な思考が必要となります。本学教養部では、学びに対する意識改革、基礎学力の保証、グローバル教育の推進、を３本柱とした教養教育を実践してきました。必修科目の他に、少人数教育、充実した選択科目、PBL教育、英語で学べる科目など、全国の医療系大学の中で屈指の充実度を誇っています。さらに最近では、現代教養とも言うべきAI・データサイエンスなどの授業も設定されています。教えられたことを暗記するだけの学びからモード転換し、自らが主体的に学び、基礎力や教養を身につけながら広い視野を獲得し、「答えのない難問」に対応できるだけの素養と学びの態度を是非とも養って欲しいと考えております。

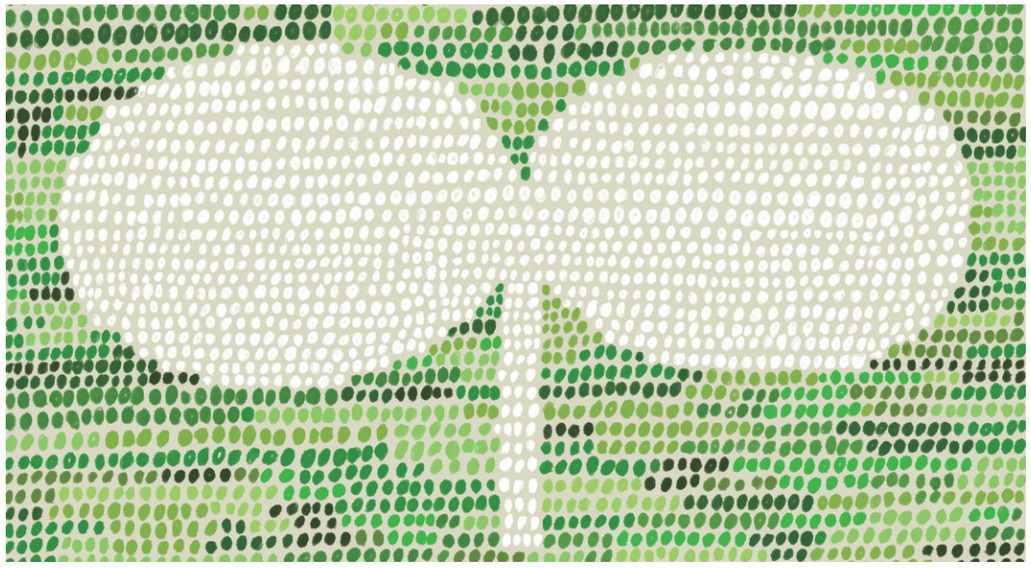
ご存知のように2024年10月に本学と東京工業大学は統合し、東京科学大学が発足します。私達はまさにこの激動の歴史の中に身をおいています。両大学の強みである医歯学と理工学のコラボレーションによって、社会に対する新しい価値の創出や、地球規模の課題に対する解決法の提案など、相乗効果により何が生まれるのでしょうか。わくわくするのと同時に、構成員としてその責任に身の引き締まる思いです。また、そのような価値を創造する若い担い手を育てていきたいと考えております。　私は、若い皆さんには何事にも大いに挑戦し、たくさんの失敗をし、そして決して諦めないで進み続けてほしいと願っております。それらの失敗が将来の成功の糧になり、夢を実現するための力となると信じているからです。私は入学時に若い皆さんにネルソン・マンデラ氏の言葉を贈っています。「生きるうえで最も偉大な栄光は、決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに起き上がり続けることにある」。

2023年度学部入学者選抜実施結果
Results of Undergraduate Admission Selection for Academic Year 2023

			募集定員 Admission Capacity	志願者数 Number of applicants		入学者数 Number of students enrolled	
医学部 Faculty of Medicine	医学科 School of Medicine		101	606	238	95	33
	保健衛生学科 School of Health Care Sciences	看護学専攻 Nursing Science	55	133	129	57	55
		検査技術学専攻 Medical Technology	35	175	139	39	36
歯学部 Faculty of Dentistry	歯学科 School of Dentistry		53	266	112	53	27
	口腔保健学科 School of Oral Health Care Sciences	口腔保健衛生学専攻 Oral Health Care Sciences	22	46	41	22	20
		口腔保健工学専攻 Oral Health Engineering	10	21	12	10	9
合計 Total			276	1,247	671	276	180

学士課程入学者の出身高校の所在地
Location of High Schools from which Students Graduated

地域 Region	都道府県 Prefecture	入学者数 Enrolled
北海道 Hokkaido	北海道 Hokkaido	2
東北 Tohoku	青森県 Aomori	3
	岩手県 Iwate	2
	宮城県 Miyagi	3
	山形県 Yamagata	1
関東 Kanto	茨城県 Ibaraki	5
	栃木県 Tochigi	2
	群馬県 Gunma	5
	埼玉県 Saitama	19
	千葉県 Chiba	21
	東京都 Tokyo	123
	神奈川県 Kanagawa	32
中部 Chubu	新潟県 Niigata	2
	富山県 Toyama	1
	石川県 Ishikawa	2
	長野県 Nagano	5
	静岡県 Shizuoka	7
	愛知県 Aichi	4
近畿 Kinki	三重県 Mie	2
	滋賀県 Shiga	1
	京都府 Kyoto	2
	大阪府 Osaka	2
	兵庫県 Hyogo	5
	奈良県 Nara	3
	和歌山県 Wakayama	1
中国 Chugoku	岡山県 Okayama	2
	広島県 Hiroshima	1
	山口県 Yamaguchi	1
四国 Shikoku	徳島県 Tokushima	1
	香川県 Kagawa	3
	愛媛県 Ehime	3
	高知県 Kochi	2
九州・沖縄 Kyushu / Okinawa	福岡県 Fukuoka	1
	熊本県 Kumamoto	1
	宮崎県 Miyazaki	2
	鹿児島県 Kagoshima	1
	沖縄県 Okinawa	3
合計 Total		276



医療分野における「ものづくり」拠点として

東京医科歯科大学
生体材料工学研究所長
影近 弘之先生
Hiroyuki Kagechika

生体材料工学研究所は、195（1 昭和 26）年に歯科材料研究所として設置され、以後、医療系総合大学における理工系の教育研究を担ってきました。医歯学、生命科学の研究者と密接に連携し、医療分野で有用な「ものづくり」を鍵として、生体材料、生体システム、医薬化学の各分野で先端的な研究と人材育成を行う、世界でもユニークな研究所として 70 年以上の歴史と伝統があります。これまで、医用器材研究所（1966 年）、生体材料工学研究所（1999 年）へと改組、改称して、現在に至っています。研究所発足の経緯、歴史、代表的な成果については、本誌特集号「生体材料工学研究所 60 年史」に詳細に記載されていますので、是非ご一読ください。

本研究所は、学術性に加えて、医歯工連携、産学連携の実績を重視した体制をとることで世界をリードする研究を行うとともに、抗血栓性ポリマー、歯科用接着剤、歯科用チタン合金、アパタイト、急性前骨髄球性白血病治療薬、手術支援ロボットなどの多くの製品を社会に送り出し、医療および歯科医療の進展に貢献してきました。最近では、研究所の教員が研究成果をもとに人工心臓、手術ロボット、生体模倣システム、生殖補助医療、人工膵臓、DX プラットフォーム等に関するベンチャーを設立し、社会へ貢献しています。

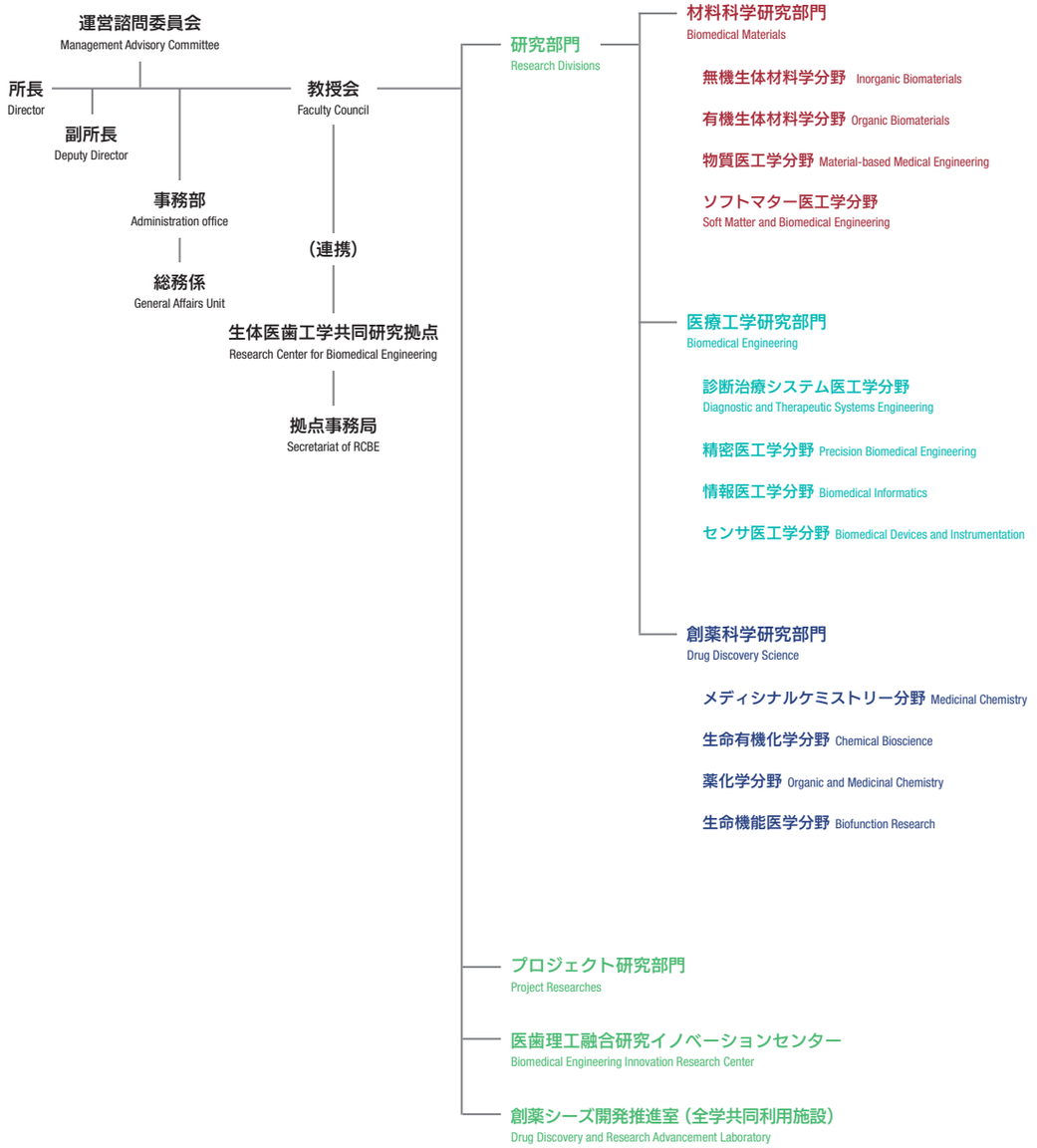
本研究所は、現在、材料科学研究部門、医療工学研究部門、創薬科学研究部門の 3 部門 12 分野から構成されています。小さな所帯であるため、様々な大学間連携を推進してきました。2010 年より材料系の 6 研究所連携プロジェクトに参画し、現在は「国際・産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト」におけるバイオ・医療機器材料分野を担当しています。また、2017 年から文部科学省共同利用・共同研究拠点「生体医歯工学共同研究拠点」に認定され、その中核機関として東京工業大学未来産業技術研究所、広島大学半導体産業技術研究所、静岡大学電子工学研究所とネットワークを形成し、高水準工学技術に立脚した高度医療の実用化を目指した共同研究を推進しています。幸いにも第 I 期の事業で S 評価をいただき、2022 年度から第 II 期の事業を開始し、AI・IoT を基盤として、ニューノーマル社会の医療基盤を創成したいと考えています。また、創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム事業（BINDS）等のプロジェクトおよびリサーチコアセンターと連携した創薬シーズ開発推進室を通して、画期的創薬を目指す研究者を幅広く支援する活動に取り組んでいます。

教育面では、2003 年に難治疾患研究所とともに理工系の大学院の設置や、研究所独自の人材養成プログラム（2005 ～ 2009 年）を行ってきました。大学院は 2012 年に医歯学総合研究科に統合されましたが、工学、化学に関する教育や研究指導を行うことで、最先端研究を先導し、技術革新を目指す人材の育成を行っています。

本学は 2024 年 10 月に東京工業大学と統合し、東京科学大学として新たなスタートを切ります。新大学は、医歯工連携の推進、そしてコンバージェンス・サイエンスへの展開を目指しています。これは、まさしく本研究所の取り組みと合致しており、これまでの実績をさらに発展させる良い機会であると考えています。医療分野における「ものづくり」の拠点として、一層研究教育に専念し、努力していきたいと考えております。

生体材料工学研究所組織図
Organization of IBB

2024年4月1日現在



難治疾患研究所の歩みと今後の展望

東京医科歯科大学
難治疾患研究所長
仁科 博史先生
Hiroyuki Kagechika

難治疾患研究所は東京医科歯科大学に設置された7つの医学部附属研究施設を源流とします。1973（昭和48）年9月29日にこれら研究施設を統合・再編成し、「膠原病その他の難治疾患に関する学理およびその応用の研究」を目的とする難治疾患研究所が発足しました。この際に、難病対策は厚生省の管轄であるため、文部省所管の大学附置研究所には「難治疾患」という名称を用いましたが、「難治疾患」と「難病」の異同はその後も常に議論の的となりました。

2022年度より本学は指定国立大学となり、本研究所も内外の研究者との共同研究を含む先端的・先導的な研究を推進していくため、3部門21分野を中核にした研究組織に改変されました。「未来生命科学研究部門」では難治疾患の病因の発見、病態の解明ならびに診断・予防・治療法の開発基盤の構築を、「病態制御科学研究部門」では難治疾患の病態形成機構の基本的なメカニズムの解明と、これを基盤とした新たな診断法・治療法の開発と難治疾患の克服を、「バイオデータ科学研究部門」では難治性疾患や生活習慣病の克服を目的とした画期的な治療法とビッグデータに基づいた個別化医療の実現、発症前診断法や疾患予防法の開発を目指します。先の見えにくい時代に対応するのみならず、一歩も二歩も時代を先取りするためには、21分野からなる本研究所は適切なサイズであると考えます。2023年10月24日には、鈴木章夫記念講堂にて50周年記念式典が開催されました。

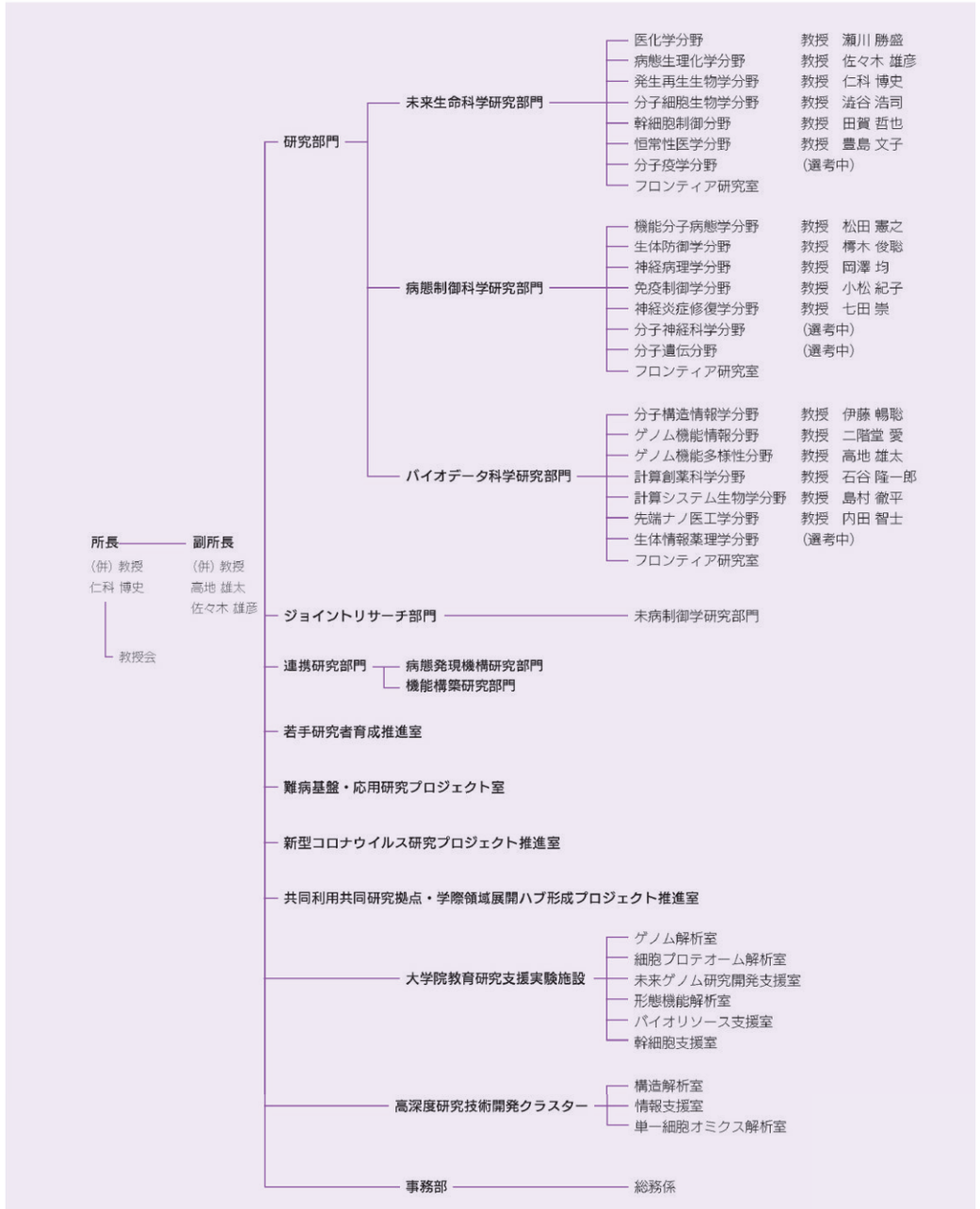
2010年度からは、共同利用・共同研究拠点「難治疾患共同研究拠点」として国内外の研究者を受け入れた共同研究を推進しています。また、ゲノムから代謝物に至る多階層の生体分子情報を横断的に理解するトランスオミクス研究を実現するため、国内4拠点（本研究所、九州大学生体防御医学研究所、熊本大学発生医学研究所、徳島大学先端酵素学研究所）がネットワークを形成し、トランスオミクス医学研究拠点ネットワーク形成事業（2016～2021年度）と、後継の高深度オミクス医学研究拠点ネットワーク形成事業（2022～2027年度）へと発展しています。さらに、従来と異なる研究機関・研究者コミュニティーと連携するための「新たなシステム」（ハブ）を形成する試みとして、「多階層ストレス疾患の克服：基礎医学・生命科学と精神医学・心理学を融合させるための新たな連携体制（東京都医学総合研究所や国立精神・神経医療研究センター）を構築し、遺伝子・細胞から精神・ヒト社会までの多階層にわたるストレス疾患の病因・病態形成機構解明と診断・予防・治療法の開発を行う」（2023～2032年度）も展開中です。

2024年10月1日には東京工業大学と統合し、東京科学大学が誕生します。『「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探求し、社会とともに新たな価値を創造する』というミッションのもと、世界を切り拓く先駆者として、科学の可能性を拡張します。本研究所は、コンバージェンス・サイエンスを生み出す医工連携の最前線の役割を担うことが期待されており、これまで以上に高い目標を掲げ、実行能力のある個々人からなる組織を目指し、新たな時代、次の50周年を迎えたいと考えています。多くの皆様に注目され尊敬される難治疾患研究所となれるよう、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

難治疾患研究所組織図

2024年5月現在

Organization



東京医科歯科大学と東京工業大学が統合し、2024年10月に東京科学大学となります。

東京医科歯科大学病院

診療・教育・研究を通じて社会貢献を続ける

東京医科歯科大学病院
病院長

藤井 靖久先生
Yasuhisa Fujii

1988年東京医科歯科大学医学部医学科卒業。同大学医学部附属病院(現・東京医科歯科大学病院)泌尿器科勤務、米国ピッツバーグ大学およびルイビル大学内分泌代謝学教室博士研究員、がん研究会有明病院泌尿器科副部長を経て、2016年8月より東京医科歯科大学大学院腎泌尿器外科学教授。2019年4月より東京医科歯科大学医学部附属病院副病院長(併任)、2023年4月より東京医科歯科大学病院病院長(併任)。

2021年10月に東京医科歯科大学医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し東京医科歯科大学病院が誕生し、病院の理念は「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する」となりました。これは、医学と歯学の融合により相乗効果を発揮して、「頭から足先まで」トータルに全身を診ることで、今まで以上に患者さんの健康に貢献できる医療を提供するということを掲げたものです。

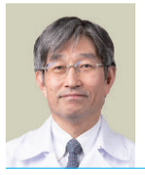
当院は一体化の前から社会貢献を使命とし、2020年に感染拡大した新型コロナウイルス感染症に対して、高度な診療機能を有する最後の砦として社会からの要請に応えるべく、東京医科歯科大学病院としては初代病院長の内田信一先生のリードのもと、病院一丸となって取り組みました。田中雄二郎学長が掲げた「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」をスローガンとして積極的にコロナ診療を行い、東京都内で最多数の重症患者の入院診療を行いました。同時にコロナに関する研究においても『PNAS』などの権威ある医学雑誌に掲載されるような質の高い成果を社会に発信しました。

また、当院は社会貢献の一環として災害医療も非常に重視してきました。災害の超急性期に緊急医療を提供するDMAT(災害派遣医療チーム)や、災害後長期間にわたって医療支援と健康管理に従事するJMAT(日本医師会災害医療チーム)の隊員も多く在籍し、東日本大震災、西日本豪雨、熊本地震等に加え、海外の災害現場にも医療チームを派遣してきました。本年の能登半島地震でもDMAT、JMATチームに加え感染症対策チームなど、多くの医療チームが現地で活躍しました。

2023年10月には、C棟(機能強化棟)が本格稼働し、大地震発生時にも医療を継続できるよう強力な免震装置や停電にも対応可能な非常用発電機、太陽光発電パネルも設置しています。最新の医療システムを備えた救命救急センターには、機能的な緊急対応を考慮した手術室・重症処置室など全10室や、ER専用病棟(ER-ICU-HCU)全30床を有しています。一般ICU-HCU病棟には25床の完全個室があり、患者さんに快適な空間を提供するとともに、院内での感染症の広がりを防ぎやすい構造となっています。ER病棟と合わせ8室が陰圧を保つことができる構造で空気感染する感染症を発症した患者さんにも安全に医療を提供できるようになっています。7室ある手術室では、ハイブリッド手術やロボット支援下手術も可能です。加えて医療器材の洗浄・滅菌管理などを行う材料部では、停電時も滅菌処理ができる体制が整い、有事の際にも対応できるよう医療品を備蓄・管理しています。1階ホールも緊急時には救急医療の現場として機能できる設備が整っています。

そして、2024年10月、東京医科歯科大学と東京工業大学は統合して東京科学大学が誕生し、当院も東京科学大学病院となります。医学と歯学のみならず理工学と融合することで、当院はより高いレベルの医療を提供できると期待しています。東京科学大学病院としても、診療・教育・研究を通じて社会貢献を続けていきたいと存じます。

世界最高水準のトータル・ヘルスケアの提供を目指して



東京医科歯科大学病院
首席副病院長

新田 浩先生
Hiroshi Nitta

1986年東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業、1991年同大学大学院歯学研究科修了。同大学歯学部助手、1994～1996年文部省在外研究員(米国テキサス大学 サンアントニオ校ヘルスサイエンスセンター)。2000年同大学大学院歯周病学分野助教。2003年同大学院歯科医療行動科学分野准教授。2019年同大学歯学部附属 病院(現・東京医科歯科大学病院)歯科総合診療部教授。2022年同大学院総合診療歯科学分野教授、東京医科歯科大学病院首席副病院長。

東京医科歯科大学病院の歯系診療部門は、1日あたりの外来患者数が約1,450人(2024年3月)、2023年度の外来患者数が32万人を超え、年間入院患者数が13,000人(病床数60床)を超える、日本最大の歯科大学病院です。15の診療科とその下に12の専門外来を有し、あらゆる歯科疾患に対応する体制を整えています。2010年10月に発行された本誌特集号『歯学部80年史』では、本学歯学部附属病院の歴史と概要について記述されていますが、ここではその後の変革について述べさせていただきます。

第1の変革は、2015年10月の先端歯科診療センターの設立です。このセンターは、高度で先進的な歯科治療を効率的に提供することを目的としています。日本の歯科治療では、社会保険制度が充実しているものの、保険制度の制約により、理想的な治療が難しい場合があります。さらに、歯学部附属病院は、独立した専門外来の集合体として機能していたため、包括的な治療が困難でした。本センターでは、歯科・口腔領域の専門スタッフを集結させ、連携を図りながら、最先端機器を用い、保険診療の枠組にとらわれない最適な最高水準の医療を提供しています。

第2の変革は、2021年10月に医学部附属病院と一体化し、東京医科歯科大学病院歯系診療部門となったことです。病院の理念は、「優れた医療人の育成に努め、患者一人ひとりに適した最高水準の歯科医療を提供する」から、「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する」へと変わりました。「トータル・ヘルスケア」には、医系と歯系の診療部門間の連携を強化し、「頭から歯を含めて足先まで」全身に対しての質の高い医療を意味します。これは、医学部と歯学部を兼ね備える東京医科歯科大学だからこそ提供できる医療です。医歯連携の一環として、2022年1月にオーラルヘルスセンターが設立され、医系診療部門の手術・入院患者さんに口腔健康管理が実施されています。手術前に口腔内の清潔を保ち、口腔内細菌を減少させる周術期口腔機能管理は、術後の肺炎や重症感染症の合併症予防や入院日数短縮の効果があります。2023年度は1万人以上の患者さんに実施しています。

一体化後、歯系診療部門は特定機能病院となり、医療安全及び感染対策が特定機能病院の基準に沿った高いレベルで提供されるようになりました。これにより、クオリティーマネジメントが向上しました。口腔外科の大規模手術では、手術後の集中治療室(ICU)や高度治療室(HCU)での管理が可能になり、また医系の入院オリエンテーションや入院患者の栄養管理サポートシステムが歯系診療部門に導入され、入院治療がより安全に受けられる体制が整備されました。

第3の変革はこれからです。2024年10月に本学は東京工業大学と統合し、東京科学大学となります。医科と歯科の一体化により、世界最高水準の医療を提供することを目標としてきた東京医科歯科大学病院は、医学、歯学、工学が三位一体となった東京科学大学病院へと進化します。東京科学大学病院は世界最高水準を超える異次元の医療を提供し、人々の健康と幸せに貢献できると期待しています。

挑戦、交流、変革、救急医療・集中治療を表すC棟誕生
平時も非常時も世界最高水準の医療を提供

2023年10月1日、東京医科歯科大学病院の新しい施設として、C棟(機能強化棟)がオープンしました。地下2階、地上7階建てで、延べ床面積は約15,000m²のC棟にはERセンター、手術室、ICU-HCU、材料部、医療情報部などが集まり、病院の機能を強化しています。また医科A棟と歯科D棟を結ぶことで、医科と歯科を融合させた他に類を見ない急性期医療をより迅速に提供することを可能にしました。さらに御茶ノ水駅に最も近い棟として、大都市圏の医療体制を守るために、地震発生時でも病院機能を継続できるように強力な免震装置と、非常用医療機器・発電機が施されており、“災害に強い大都市の病院”としての機能を備えています。

C棟の建設計画は2016(平成28)年頃、当時学長だった吉澤靖之先生と、医療担当理事を務めていた田中雄二郎学長が中心となりスタートしました。C棟は病院の再整備の一環で計画され、災害時の拠点となること、本学の新たな顔・玄関となることを原則に、検討会を作って建設計画が進められました。着工は2020年7月1日で、新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響などもありましたが、約3年の歳月をかけて完成し、2023年9月18日には、「東京医科歯科大学病院C棟完成披露式典」が開催されました。

免震装置、非常用発電機を設置

各階の多彩な機能をご紹介すると、地下2階とその下には、地震発生時に揺れを吸収し、揺れを建物に伝わらないようにしてダメージを少なくする免震装置が設置されています。さらに非

常用発電機800キロワットが2台、重油タンク5万リットルを設置しており、約96時間(4日間)の停電でも材料部を含め医療行為を継続できるように防災機能を強化しています。

地下1階のERセンターには、手術室・処置室・重症処置室などが全10室あり、中でも「ハイブリッドER」は救急初期初療、緊急CT、緊急血管造影、緊急手術の4つの機能を1つの部屋で包括でき、救急患者さんの移動を最小限にすることで、安全で迅速な対応を可能にしています。

C棟外観

C棟完成披露式典

5階ICU

4階 材料部

ハイブリッド手術室

1階 カフェ・ホール

1階のカフェ・ホールは地下から地上2階まで吹き抜けの広々と心地よい空間で、大手コーヒーチェーン店、大学関連グッズなどを販売するショップ、カフェ、ギャラリー、自由に利用できるソファ、テーブル、イスが設置されています。壁面には災害時に使用できる医療ガス供給設備や非常用コンセントが21カ所に設置されているほか、広々とした授乳室があります。

2階には医療情報部があり、高度で先進的な医療において欠かせない、電子カルテ、オーダリング、検査結果、画像、各種文書といった多くの重要な診療情報を安全に取り扱えるように管理しています。情報通信技術(ICT)を最大限に活用したシステムの運用を遂行することで、最新で最善の医療をサポートしています。

完全個室のICU、ハイブリッド手術室

3階のER-ICU(救命救急集中治療室)、ER-HCU(救命救急高度集中治療室)には完全個室が30床あり、最新鋭の医療機器や十分に配慮された感染予防システムなどをフル活用することで、重症外傷、ECMOを用いた心肺蘇生、出血性疾患(消化管出血など)、虚血性疾患(心筋梗塞、塞栓性脳梗塞)に対して今まで以上に速やかな対応が可能です。4階には材料部があり、院内で様々な医療行為に使用される再使用可能医療機器(ハサミやピンセット等)や医療材料(注射器や注射針、カテーテル等)を、安全かつ適切に使用できるように再生処理・調整・管理・供給する業務を行っています。

5階のICU-HCUは、完全個室で外光が差し込む25床を設置し、そのうち4室が陰圧・陽圧の切り替えが可能な感染対策室です(3階のER-ICUにも4室あり)。また一部の個室には収納式などのトイレを設置したほか、ICUとHCU間に可動式の遮断扉を設け、感染症発生時に分離して感染対応ができるように設計しています。

6階の手術部には、高度先進医療を支える7つの手術室があります。手術台と血管撮影装置(X線撮影装置)を組み合わせたハイブリッド手術室を2室新設したことで、より高度な循環器系疾患の手術や、カテーテル治療と外科手術を組み合わせた大動脈ステント治療などが可能になりました。また最新型ダビンチも導入し、世界のロボット手術を牽引していきます。

7階は機械室と屋上があり、屋上には環境に配慮した設備が2つあります。1つはソーラーパネルが設置されており、太陽光発電をしています。もう1つはグリーンスペースを設けて芝生を育てています。C棟は救急医療・集中治療、交流、変革、挑戦などの英語の頭文字にあるCを冠しています。自由でフラットに集える東京医科歯科大学のモニュメントとして愛されながら、平時にも非常時にも変わることなく世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供することで人々の幸せに貢献し続けてまいります。

東京医科歯科大学病院　組織図

病院長 Director

首席副病院長・副病院長 Senior Deputy Director / Deputy Director

病院長補佐 Director Assistant

医系診療部門
Division of Clinical Medicine

内科系診療領域 Department of Internal Medicine
- 血液内科 Hematology
- 膠原病・リウマチ内科 Rheumatology
- 糖尿病・内分泌・代謝内科 Diabetes, Endocrinology and Metabolism
- 腎臓内科 Nephrology
- 総合診療科 General Medicine
- 消化器内科 Gastroenterology and Hepatology
- 循環器内科 Cardiovascular Medicine
- 呼吸器内科 Pulmonary Medicine
- 臨床腫瘍科 Department of Clinical Oncology
- 緩和ケア科 Palliative Care
- がんゲノム診療科 Precision Cancer Medicine
- 遺伝子診療科 Medical Genetics
- 感染症内科 Infectious Diseases
- 長寿・健康人生推進科 Personalized Medicine for Healthy Aging

外科系診療領域 Department of General Surgery
- 食道外科 Esophageal Surgery
- 胃外科 Gastric Surgery
- 大腸・肛門外科 Colorectal Surgery
- 乳腺外科 Breast Surgery
- 小児外科 Pediatric Surgery
- 末梢血管外科 Peripheral Vascular Surgery
- 肝胆膵外科 Hepatobiliary and Pancreatic Surgery
- 心臓血管外科 Cardiovascular Surgery
- 呼吸器外科 Thoracic Surgery
- 泌尿器科 Urology
- 頭頸部外科 Head and Neck Surgery
- 救急科 Acute Medicine
- 病理診断科 Diagnostic Pathology

感覚・皮膚・運動機能診療領域 Department of Sensory, Orthopaedic, and Dermatologic Medicine
- 眼科 Ophthalmology
- 耳鼻咽喉科 Otorhinolaryngology
- 皮膚科 Dermatology
- 形成・美容外科 Plastic and Reconstructive Surgery
- 再建形成外科 Reconstructive Plastic Surgery
- 整形外科 Orthopaedic Surgery
- リハビリテーション科 Rehabilitation

小児・周産・女性診療領域 Department of Pediatrics, Perinatal, and Women's Medicine
- 小児科 Pediatrics
- 周産・女性診療科 Perinatal and Women's Medicine

脳・神経・精神診療領域 Department of Neurology, Neurosurgery, Psychiatry, and Anesthesiology
- 脳神経外科 Neurosurgery
- 脳神経内科 Neurology
- 血管内治療科 Endovascular Surgery
- 精神科 Psychiatry
- 心身医療科 Psychosomatic and Palliative Medicine
- 麻酔・蘇生・ペインクリニック科 Anesthesiology

放射線診療領域 Department of Radiology
- 放射線治療科 Radiation Oncology
- 放射線診断科 Diagnostic Radiology

特殊診療領域 Department of Specialized Medical Care
- 光学医療診療部 Endoscopy
- 周産期母子医療センター Perinatal Medicine Center
- 高気圧治療部 Hyperbaric Medical Center

歯系診療部門
Division of Clinical Dentistry

口腔育成系診療領域 Department of Oral, Maxillofacial Growth and Development
- 矯正歯科 Orthodontics
- 小児歯科 Pediatric Dentistry
  - (専) 障害者歯科外来 Special Needs Dentistry

口腔維持系診療領域 Department of Conservative Dentistry
- むし歯科 Operative Dentistry and Endodontics
- 歯周病科 Periodontics

口腔機能系診療領域 Department of Oral and Maxillofacial Rehabilitation
- 義歯科 Prosthodontics
  - (専) スポーツ歯科外来 Sports Dentistry
  - (専) 快眠歯科 (いびき・無呼吸) 外来 Dental Clinic for Sleep Disorders (Apnea and Snoring)
  - (専) 顎顔面補綴外来 Maxillofacial Prosthetics
  - (専) 言語治療外来 Speech Clinic
  - (専) 高齢者歯科外来 Geriatric Dentistry
  - (専) 歯科アレルギー外来 Dental Allergy
  - (専) 顎関節症外来 Temporomandibular Disorders Clinic
- 口腔インプラント科 Dental Implant Clinic
- 摂食嚥下リハビリテーション科 Dysphagia Rehabilitation

口腔外科系診療領域 Department of Oral and Maxillofacial Surgery
- 口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery
  - (専) 顎口腔変形疾患外来 Oral and Maxillofacial Malformation Clinic

歯科麻酔・歯科心身診療領域 Department of Dental Anesthesiology and Psychosomatic Dentistry
- 歯科麻酔科 Dental Anesthesiology
  - (専) 歯科ペインクリニック Orofacial Pain Clinic
- 歯科心身医療科 Psychosomatic Dentistry Clinic

口腔放射線診療領域 Department of Oral Radiology and Radiation Oncology
- 歯科放射線科 Oral Radiology and Radiation Oncology Clinic

歯科総合診療領域 Department of General Dentistry
- 歯科総合診療科 Oral Diagnosis and General Dentistry
  - (専) 息さわやか外来 Fresh Breath Clinic
  - (専) クリーンルーム歯科外来 Cleanroom
  - 第１総合診療室 General Dentistry 1
  - 第２総合診療室 General Dentistry 2
- 口腔健康管理科 Oral Health Management

基礎診療部門
Division of Integrated Facilities

- 薬剤部 Pharmacy
- 検査部 Clinical Laboratory
- 手術部 Surgical Center
- 放射線部 Radiology Center
- リハビリテーション部 Rehabilitation Center
- 集中治療部 Intensive Care Unit
- 材料部 Materials Management
- 病理部 Pathology
- 救命救急センター Trauma and Acute Critical Care Medical Center
- 血液浄化療法部 Hemopurification
- ME センター Medical Engineering Center
- 不整脈センター Heart Rhythm Center
- 快眠センター Clinical Center for Pleasant Sleep
- 難病診療部 Intractable Disease Treatment
- がん先端治療部 Center for Innovative Cancer Treatment
- 臨床栄養部 Nutrition Services
- 長寿・健康人生推進センター Center for Personalized Medicine for Healthy Aging
- 低侵襲医療センター Center for Minimally Invasive Surgery
- 輸血・細胞治療センター Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy
- メンタルヘルス・リエゾンセンター Mental Health Liaison Center
- 歯科技工部 Dental Laboratory
- 歯科衛生保健部 Department of Dental Hygiene
- 先端歯科診療センター Center for Advanced Interdisciplinary Dentistry
- オーラルヘルスセンター Oral Health Center
- リプロダクションセンター Center for Reproductive Medicine
- 緩和ケアチーム Palliative Care Team
- 栄養サポートチーム Nutrition Support Team
- 認知症ケアチーム Dementia Care Team
- 術後疼痛管理チーム Acute Pain Service

診療管理部門
Division of Clinical Management

- 医療情報部 Medical Informatics
- 医療連携支援センター Medical Welfare and Liaison Services Center
- 総合教育研修センター Professional Development Center
- クオリティ・マネジメント・センター Quality Management Center
- 国際医療部 International Health Care Department
- 災害危機管理部 Department of Disaster and Crisis Management (DDCM)
- ベッドコントロールセンター Bed Management Center

看護部
Department of Nursing

病院事務部
Hospital Administration Department

- 保険医療管理部 Department of Insured Medical Care Management
- 医療安全管理部 Department of Clinical Quality and Safety
- 感染制御部 Division of Infection Control and Prevention
- 臨床研究監視室 Clinical Research Monitoring Office
- 臨床研究中核病院設置準備室 Clinical Research Core Hospital Project Office
- ヘルスサイエンスR&Dセンター Health Science Research and Development Center (HeRD)
- スポーツサイエンス部門 Sports Science Department

2024年10月、東京医科歯科大学と東京工業大学が統合し「**東京科学大学**」が誕生。

新大学の名称は、公募による6,000 件以上の提案 の中から「東京科学大学 (Institute of Science Tokyo)」に決定しました。

「東京科学大学」という名称は、国際都市「東京」に 本拠地を置く大学であることを示しつつ、伝統ある 東京医科歯科大学・東京工業大学それぞれの専門分 野のみならず、人文科学・社会科学的な視点をも含め た「科学」の発展を担い、社会とともに活力ある未来 を切り拓いていくという、強い意志を表現しています。 そして、大学の略称は、世界に開かれた大学として「Science Tokyo 」としました。

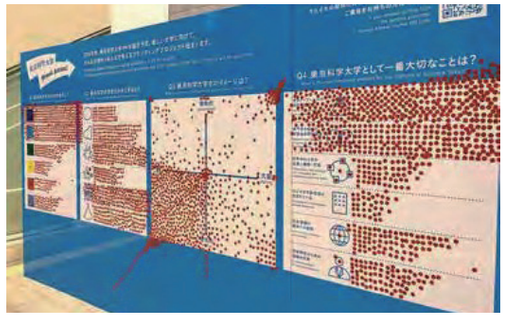
新大学の理念とロゴマークが誕生

新大学についてみんなが関わり、みんなで考えるブランディングプロジェクト「東京科学大学 BrandAction!(ブランド・アクション)」を経て生み出された、理念、ロゴマーク、そして大学名略称とブランドカラーを紹介します。

延べ 6,000 人の想いを紡いだ、新大学の理念とロゴマークができるまで

2023年10月から始まった「東京科学大学 BrandAction!」では、東京医科歯科大学と東京工業大学の構成員や関係者延べ6,000人以上が参加し、ワークショップやアンケートを通じて新大学の目指す姿を考えました。

2023年10月に開催された東京医科歯科大学のお茶の水祭、東京工業大学の工大祭でのオープンヒアリングイベントでは、学園祭を訪れた一般の方にも新大学のイメージを投票してもらいました。その後、回数を重ねたワークショップでは、未来に向けて発想を広げながら、新大学が目指す方向性や大切にしたい想いを集約し、「科学の進歩」と「人々の幸せ」の2つが実現したい要素としてまとまりました。新大学が目指す方向性、大切にしたい想いを象徴的に表すロゴマークとブランドカラーは、400人を超える方にアンケートを実施し、多くの意見を踏まえ、青系の色、外へ向かって力強く広がっていく造形として誕生しました。



東京科学大学のイメージ投票ボード (上)
シールで投票する学園祭来場者たち (下)

Mission

東京科学大学の存在意義

「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探求し、
社会とともに新たな価値を創造する

大学の名称

Science Tokyo

Science / 科学の発展を担い、社会とともに活力ある未来を切り拓いていくという、
強い意志を名称に表現しています。
略称は「Science Tokyo」を広く使い、グローバルに展開していきます。

ロゴマーク

※シンボルマーク Science S は商標登録出願済

Science Tokyo を象徴するロゴマークは、シンボルマークとロゴタイプを組み合わせて使用します。

Institute of
SCIENCE TOKYO

シンボルマーク Science S の上下の2本のアーチは、
Science Tokyo の存在意義である「科学の進歩」と「人々の幸せ」の探求、
そして、歴史ある2つの大学の歩みを表し、
中央のアーチは、その2つをしっかりと結びつけています。
右上に向けてダイナミックに展開していく全体の形には、
知と技術を融合する探求心や社会を巻き込み共創する姿勢を表しています。
新大学がグローバルに進展するよう、
国内外共通で英語大学名称の Institute of Science Tokyo をロゴタイプとしています。

CMYK (100, 82, 8, 16)
RGB (28, 49, 119)

ブランドカラー

Science Blue

Science Tokyo の、科学の進歩を体現していく志、探求心によって知と技術を融合・越境する知性、人間らしい幸せ・在り方に寄り添うことでもたらされる希望、一人一人の個性や想いの尊重により育まれる豊かな創造の文化を象徴しています。

Science Tokyo
特設サイト